

第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画の評価に係る

「ふり返しシート」調査報告書（令和4年度）

目 次

■調査の実施		1
■調査結果		1
共通指標		2
鶴岡地域	単位自治組織	8
//	広域コミュニティ組織	16
藤島地域	単位自治組織	21
//	広域コミュニティ組織	25
羽黒地域	単位自治組織	28
//	広域コミュニティ組織	32
櫛引地域	単位自治組織	35
朝日地域	単位自治組織	39
//	広域コミュニティ組織	43
温海地域	単位自治組織	46
<参考> 「ふり返しシート」調査票		52
	(鶴岡地域単位自治組織の場合)	

■調査の実施

第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画の地域課題に基づき、住民主体によるまちづくり活動の現状を評価・検証するとともに、今後のまちづくりの在り方や方向性を探るために、「ふり返しシート」の作成を依頼しました。

- ①調査対象 単位自治組織 463 組織、広域コミュニティ組織 33 組織の長
- ②調査時期 令和5年2月以降に配付。提出期限は令和5年4月下旬
- ③調査方法 郵送配付。回収は、市役所またはコミュニティセンターにお持ちいただくほか、メールなど
- ④回収状況 次のとおり

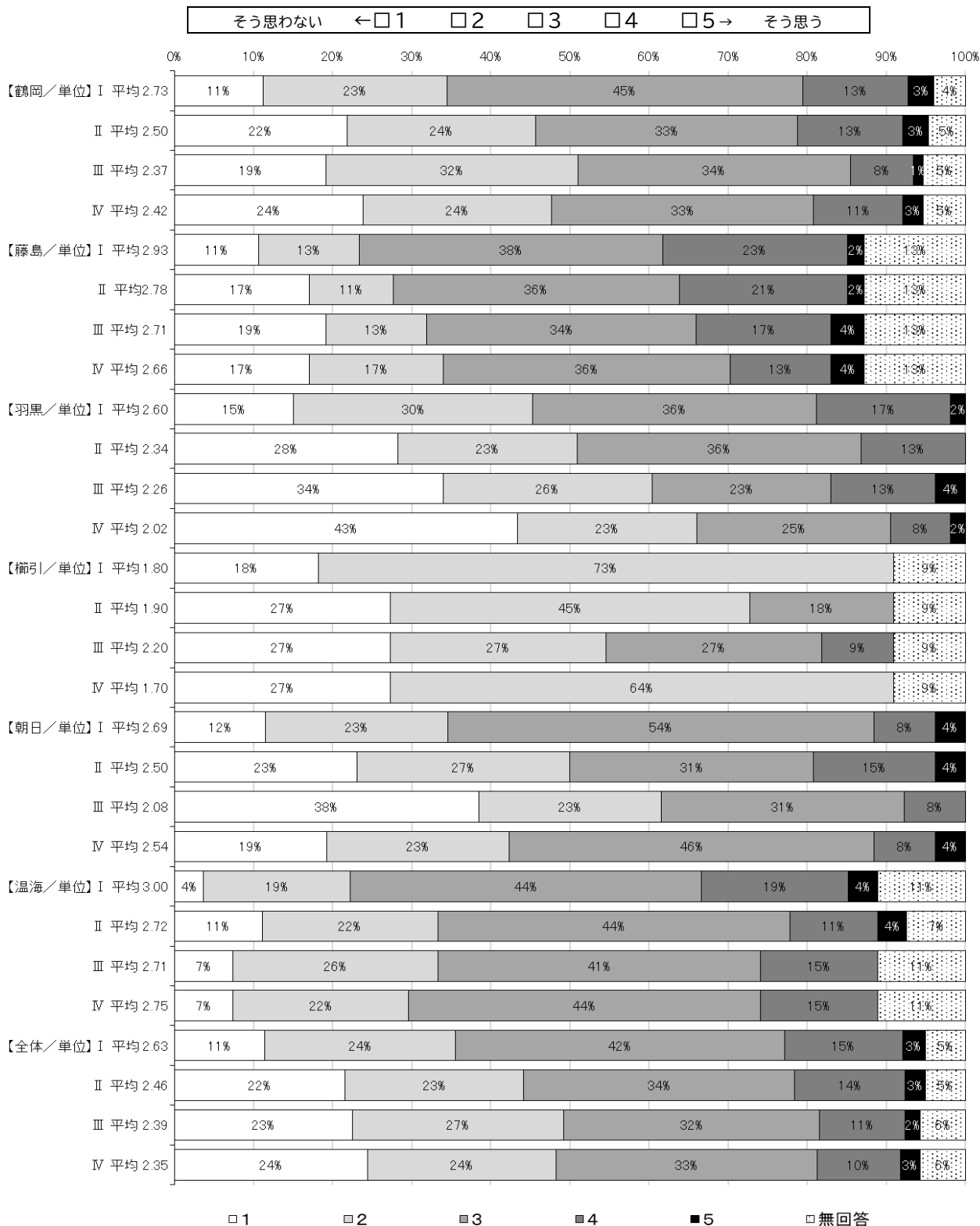
		調査対象数	回答数	有効回答数	有効割合
鶴岡	単位自治組織	247	156	156	63.2%
	広域コミュニティ組織	21	21	21	100.0%
藤島	単位自治組織	61	47	47	77.0%
	広域コミュニティ組織	5	5	5	100.0%
羽黒	単位自治組織	69	53	53	76.8%
	広域コミュニティ組織	4	4	4	100.0%
櫛引	単位自治組織	21	11	11	52.4%
朝日	単位自治組織	38	26	26	68.4%
	広域コミュニティ組織	3	3	3	100.0%
温海	単位自治組織	27	27	27	100.0%
合計	単位自治組織	463	320	320	69.1%
	広域コミュニティ組織	33	33	33	100.0%

■調査結果

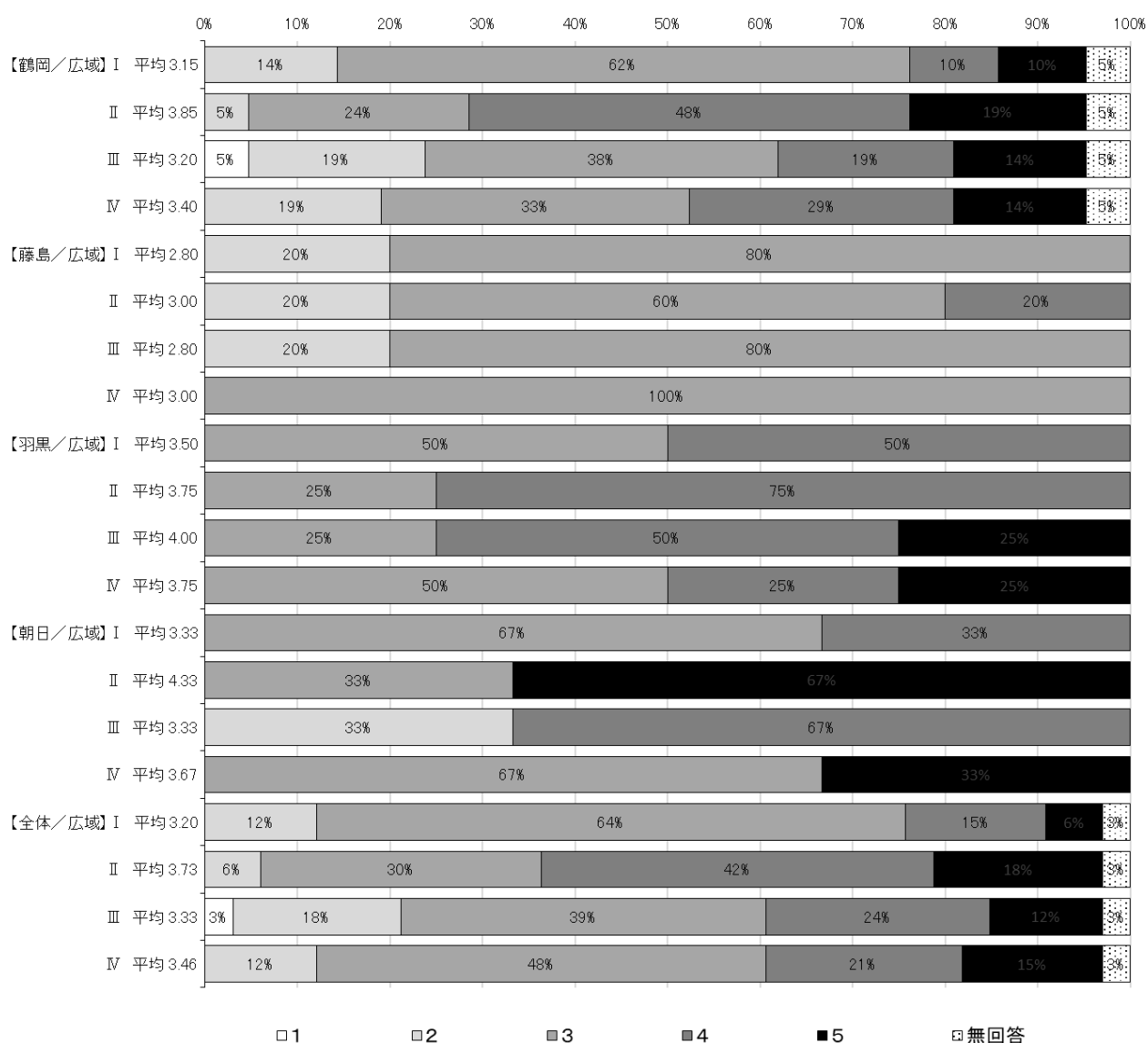
共通指標、地域課題（地域別、単位自治組織・広域コミュニティ組織別）の順に次ページ以降に示します。

5段階評価

- 項目Ⅰ 住民同士の対話（話し合い）を積極的に行った
- 項目Ⅱ 地域活動への参加者が前年よりも増えた
- 項目Ⅲ 子どもが活躍できる環境づくりを促進した
- 項目Ⅳ 組織間の連携や地域外交流を促進した



5段階評価の回答割合（R4 単位自治組織）

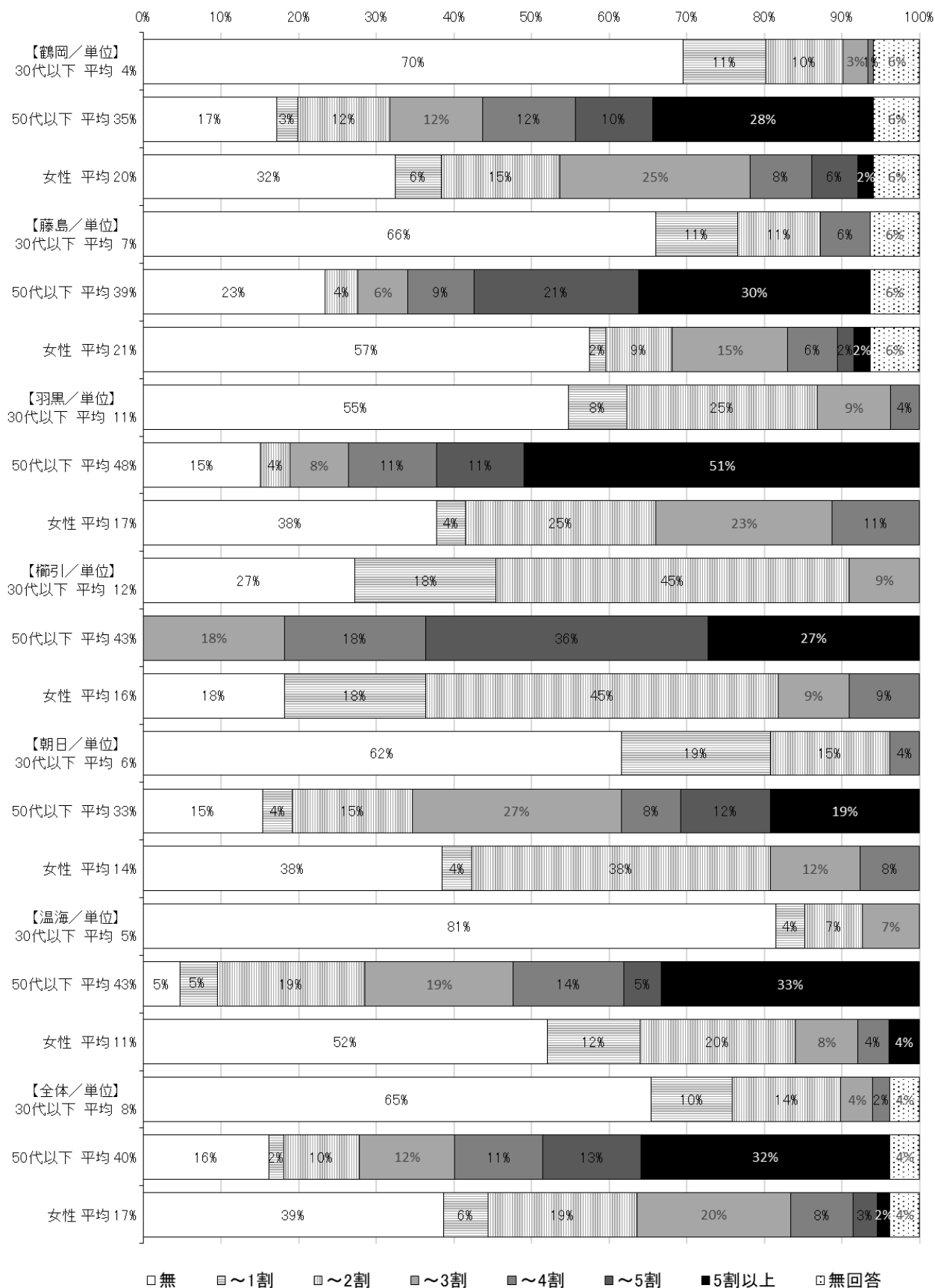


5段階評価の回答割合（R4 広域コミュニティ組織）

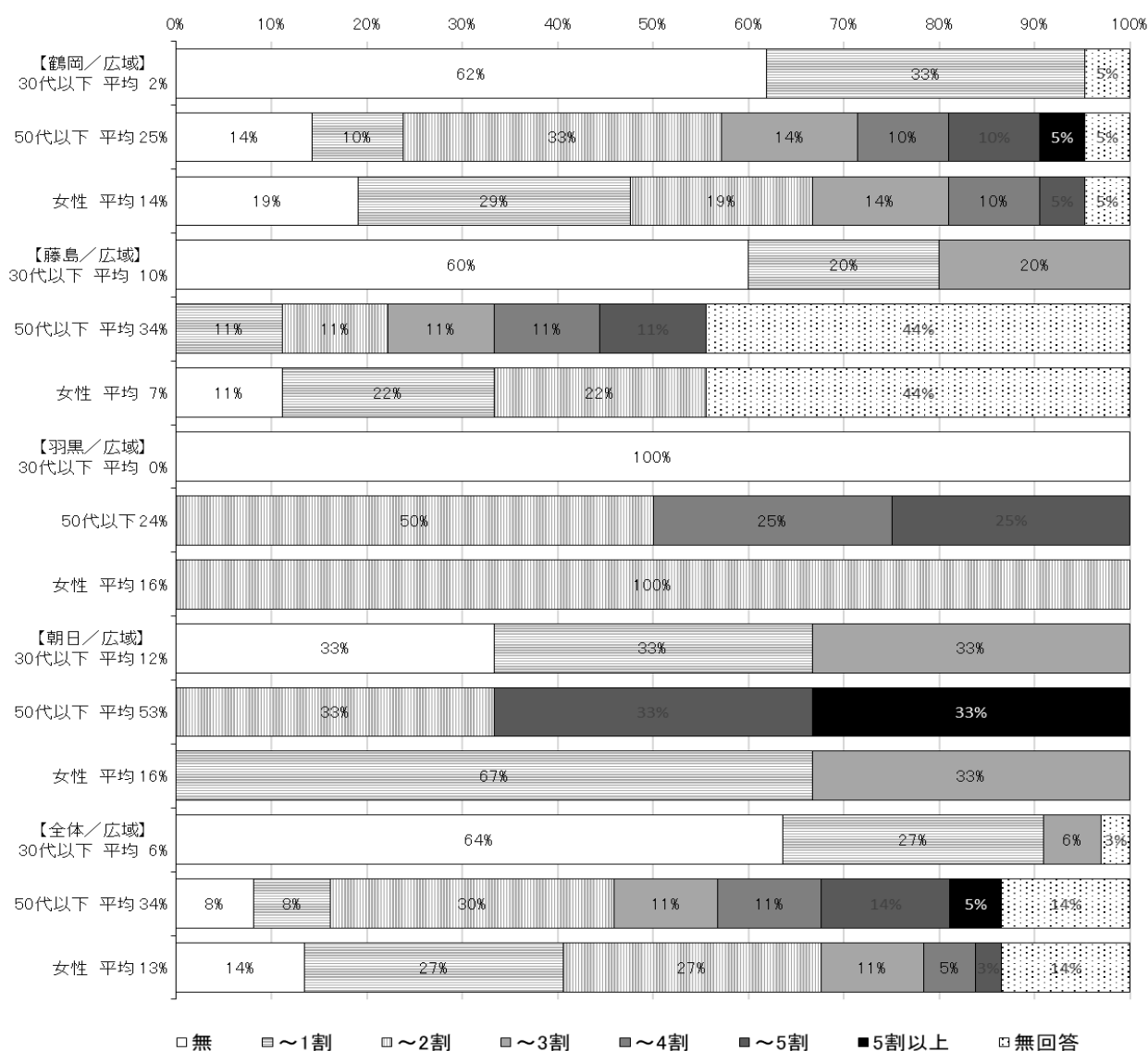
5段階評価の平均値

		R3				R4				R5				R6				R7				
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	
単位自治組織	鶴岡地域	2.44	2.17	2.17	2.17	2.73	2.50	2.37	2.42													
	藤島地域	2.46	2.28	2.63	2.21	2.93	2.78	2.71	2.66													
	羽黒地域	2.83	2.40	2.45	2.46	2.60	2.34	2.26	2.02													
	榑引地域	2.33	2.00	2.24	2.10	1.80	1.90	2.20	1.70													
	朝日地域	2.48	2.13	2.09	1.91	2.69	2.50	2.08	2.54													
	温海地域	2.70	2.37	2.41	2.44	3.00	2.72	2.71	2.75													
	全地域	2.53	2.23	2.30	2.23	2.63	2.46	2.39	2.35													
広域コミュニティ組織	鶴岡地域	3.00	2.59	2.94	2.82	3.15	3.85	3.20	3.40													
	藤島地域	3.00	2.60	2.80	3.00	2.80	3.00	2.80	3.00													
	羽黒地域	3.50	3.25	3.75	3.75	3.50	3.75	4.00	3.75													
	朝日地域	2.67	2.67	2.67	2.67	3.33	4.33	3.33	3.67													
	全地域	3.03	2.69	3.00	2.97	3.20	3.73	3.33	3.46													

役員構成



若手（30代以下、50代以下）・女性が役員に占める割合（R4 単位自治組織）

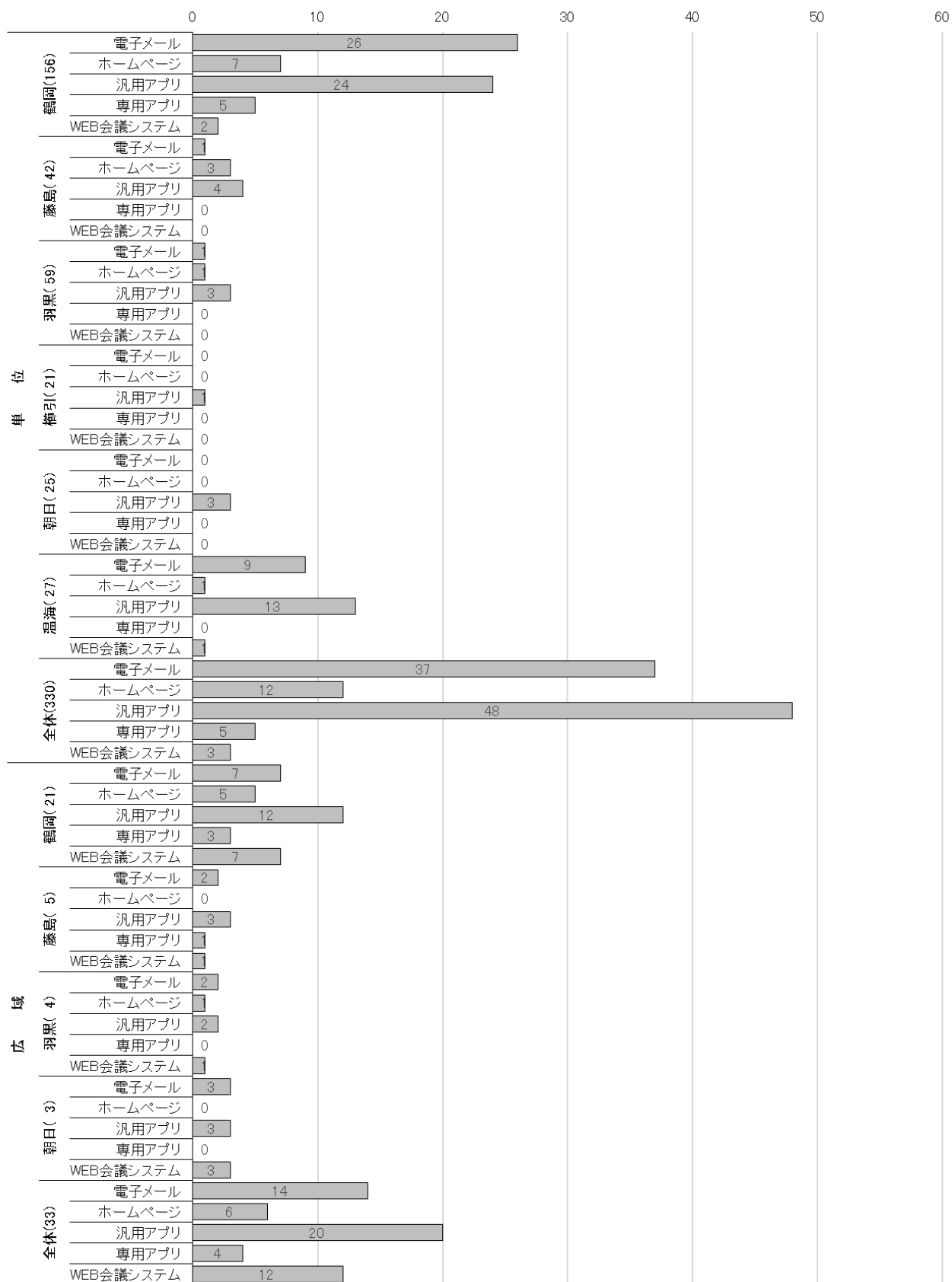


若手（30代以下、50代以下）・女性が役員に占める割合（R4 広域コミュニティ組織）

若手（30代以下、50代以下）・女性が役員に占める割合（平均値）

		R 3			R 4			R 5			R 6			R 7		
		30代以下	50代以下	女性	30代以下	50代以下	女性	30代以下	50代以下	女性	30代以下	50代以下	女性	30代以下	50代以下	女性
単位自治組織	鶴岡地域	4%	32%	22%	4%	35%	20%									
	藤島地域	8%	38%	21%	7%	39%	21%									
	羽黒地域	9%	45%	17%	11%	48%	17%									
	榑引地域	6%	34%	18%	12%	43%	16%									
	朝日地域	7%	40%	17%	6%	33%	14%									
	温海地域	7%	48%	15%	5%	43%	11%									
	全地域	6%	36%	20%	8%	40%	17%									
広域「三」組織	鶴岡地域	4%	28%	16%	2%	25%	14%									
	藤島地域	0%	24%	9%	10%	34%	7%									
	羽黒地域	0%	17%	18%	0%	24%	16%									
	朝日地域	11%	52%	15%	12%	53%	16%									
	全地域	4%	29%	15%	6%	34%	13%									

デジタル化の推進



※括弧内の数値は、回答いただいた組織数。

デジタル化の推進状況（各種デバイスを利用している組織数、単位自治組織・広域コミュニティ組織）

■自由記述から一部抜粋（単位自治組織）

- ・「LINE の活用」町内会役員や各専門部員間の情報伝達に LINE を活用。全員での利用にはならないが、できるところで施行した。LINE と電話と紙を使い分けて時間差が生じている。
- ・隣組長への情報伝達に「らくらく連絡網」を実験的に使用した（会合案内、防災訓練）
- ・役員同士の情報伝達に LINE を活用し、情報伝達の効率化を図った。
- ・LINE を使用した役員グループを作成し、LINE による情報の共有化を実施し、伝達の簡略化をした。
- ・町内会の事業参加の可否については(理事)、メールが定着しつつあり、情報が入手しやすくなった。
- ・自治振興会の活動と一緒に SNS にて、地域の情報を発信した。
- ・携帯メール等で連絡を取れるようにしたいのですが、馴染んでいる方々の差があります。
- ・住民からの要望事項の実現、デジタル端末を活用したりリモートでの集会参加などの試みを積極的に行う。
- ・SNS 等、アプリの活用で地域の情報発信して興味を持ってくれる人が少しずつでも増えればと
- ・現役世代のコミュニケーションを IT を使って行いたい。また、町内会のデジタル化を進めたい。
- ・自治会行事や集会の案内を LINE で行い、回覧等を極力減らした。ただし、スマートフォンを持たない高齢者への対応が課題である。
- ・役員同士 LINE でやり取りができるようになり、会議の日程調整などがスムーズにできるようになった。
- ・役員や各部会毎での LINE のやり取りで会議や諸連絡と、会長専用携帯電話を取り入れ、住民の声を積極的に受け入れた。

■自由記述から一部抜粋（広域コミュニティ組織）

- ・「ダイロクコミセン」というアカウント名で Facebook、Twitter、Instagram にコミセンや交流居場所「はろ〜くらぶ」で行った事業の様子を UP し、広く住民の皆さんに周知するように努めた。毎月発行の「コミセンだより」にも QR コードを掲載し、災害発生時の情報提供にも活用しようと思い広く学区の皆さんに登録を呼びかけているが、なかなか増えないところである。
- ・振興会のホームページを利用し、地区行事等の発信を行った。
- ・発災時の各町内会とコミセンの連絡体制と、防災団本部要員の連絡体制について、アプリを活用した連絡網の構築を検討していきます。
- ・広報紙の他、SNS を使い地区情報を発信
- ・Facebook を活用し、事業の周知・報告を行った。
- ・慶応義塾大学大学院生の研究事業と連携し、初心者向けに全 8 回のスマホ教室を開催した。
- ・地域の情報を発信する特設サイト「朝日共創プロジェクト」を有効活用した地域情報の提供。

地域課題① 将来を見据えた持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 事業（地域活動）の棚卸し、事業内容の見直し
- 役員の負担軽減に向けた組織体制・役員構成の見直しや運営マニュアルの作成
- 後継者や次代のリーダーの育成を意識した組織運営
- 女性の力やこれまでの経験を活かし、活躍の場を拡大
- 女性や現役世代が参加しやすい環境づくり
- （役員を輪番制としている場合）新しい課題や事業にも対応できる組織内の連携
- 会費のあり方の検討
- SNSの活用など新しい生活様式の導入
- 単位自治組織の連携・統合等の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	69	44%
取り組まなかった	84	54%
無回答	3	2%

具体的取組とその効果など

- ・役員を輪番制にしており、計画どおり進捗している。役員会は定期的を開催しており、地域の課題解決や組織体制についての意見交換を行った。次期役員のなり手がいないことや地域イベントを行っても、参加者が少ない等の課題が多く出た。
- ・毎月1回定期的に町内会役員の運営委員会を開催し、各部の役割分担の明確化を進め、活動の活性化を図った。
- ・役員の改選を期に、役員の若返りを図り執行部体制を整えた。
- ・コロナ前まで行っていた行事をR2年度から中止・縮小したことによる影響を検証し、中止・縮小したままで良いと判断できたものは、R5年度以降も継続することにした。
- ・夏祭り担当が若手となり、コロナ禍後のあり方を検討している。町民による露店からキッチンカーの導入、子ども謡くねりの簡略化、青空ショーの廃止など、負担を少なくしながらも参加しやすいものにしていくとしている。
- ・町内会役員の任期を有期に規約改定し、長期安定な役員組織より出入りを容易にすることで新規のメンバーが参加しやすいよう間口を広げた。女性の登用を活発にするため、役員推薦委員会メンバーに町内団体からの委員に女性の推薦を求め、その結果新役員の女性比率が向上した。
- ・町内会役員や各専門部員間の情報伝達にLINEを活用。全員での利用にはならないが、できるところで施行した。LINEと電話と紙の使い分けで時間差が生じている。
- ・コロナ禍を契機に実施事業の見直しを図った。しかし、町内会活動の減退と受けとられないか心配な面もある。
- ・役員構成は従来と同じだが、各部に若手を登用、新しい企画が発案された。
- ・隣組長への情報伝達に「らくらく連絡網」を実験的に使用した（会合案内、防災訓練）。
- ・役員の負担軽減の為、役員の運営マニュアル（各事業の明細書）の作成
- ・5年度から若妻会と婦人会を統合し、女性部を発足し体制の強化を図った。
- ・会費のあり方について検討し、変更した（減額、複数あった会費の統一など）。
- ・公民館役員も加えた定例自治会役員会を毎月開催し、次世代のリーダーの育成を意識した組織運営を行った。
- ・戸数・人員減少に伴い、自治会、公民館組織の統合を見据えた組織の見直しを検討開始
- ・公民館改修実行委員会を設立し、全戸アンケートを実施するなどして、今後の公民館建屋の使い方について将来を見据えて検討した。組織の担い手探しと活動内容の見直しを行った。
- ・地域の活性化を図る為、転居してきた世帯との交流会を開催した。

- ・子供PTAとか高齢者組織などの会議に役員が出席し、意見交換を行った。

地域課題② 活動の担い手となる人材の確保と育成

★具体的取組の例

- 若者が参加しやすい環境づくり
- 子どもから高齢者まで参加できる交流型事業の実施
- 子ども会や中高生、大学生、若い世代等が企画運営する事業の実施
- 単発的なスタッフ参加から、企画運営など継続的な参加につながるような、一過性に終わらない関わり方の検討
- 人材育成研修事業への参加
- 得意分野を活かした役割分担により、自分が必要とされている喜びや達成感を感じる仕掛けづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	66	42%
取り組まなかった	86	55%
無回答	4	3%

具体的取組とその効果など

- ・役員の高齢化が課題であり、一度役員に就くと十数年にわたって役員に就いているのが実態であり、若い方に声掛けをしているものの就業時間が多様化しており難しい。
- ・町内会の資源回収事業の1回は子供育成会が担当し、町内会活動へ理解と関心を持つ機会としている。
- ・町内会行事である夏祭りについては青年体育部（30～50代）が企画・実施している。
- ・ブロック毎の組長会を実施し、役員候補者などの情報を得ている。
- ・役員に町子ども会保護者会から小学生保護者1名と中学生保護者1名の2名が毎年選任され町内会活動を実施している。将来町内会役員として世代交代に繋がるようにしている。
- ・令和5年度世代間交流集会を計画・検討
- ・青少年育成部の役員を町の理事に取り込むよう、積極的に働きかけた。少数ではあるが理事として積極的に活動している。
- ・夏まつりで使用する「土俵の修復」作業に若手の夏まつり実行委員会メンバーを、又、くすんだ消火栓等設備の塗装作業に消防団員の協力を仰ぐなどして、地域づくりに若手の参加を促した。
- ・町子供会の会長（小・中）には町内会の役員になって頂く仕組みになっている事から、そのまま役員に留まってもらえる方がほとんどで、その面ではかろうじて確保できた。若手役員と他の役員とのチームワークも順調に維持できていると思う。
- ・事業の企画運営に関して、従来の役員主導から、単体の事業に携われやすいように実行委員会やサポーター的な位置づけにしてソフトタッチにする試みを取り入れ始めた。例）夏まつり実行委員会
- ・子供会役員との話し合いを通し、若い世代の考え方を理解するようにした。
- ・若い人材から、総会時に議長や書記などを担当して経験を積んでいただいた。
- ・町内会で活動する各団体へ、経済支援措置や活動への町内会役員参加などを行った。団体リーダーが将来の町内活動を担う人材となることを期待している。
- ・子供育成会会長、公民館館長を加えた自治会予算会議を設け、コロナ禍後の活動や予算について話し合った。
- ・役員の人材は、子供育成会、公民館役員を経験して自治会役員になる流れが定着している。
- ・自治振興会の活動に積極的に参画し、各事業部へ適材適所に人員協力を行っている。
- ・子供会が解散し、資源ゴミの回収を青年部が引き継ぎ、地域にいる人を巻き込み徐々に地域の活動にも参加してもらう様に仕向けている。

- ・町内理事会に若い住人を呼んで、今後の活動の内容などの意見交換を実施した。
- ・役員のなり手がいないことから、役員選出検討委員会を設立し、全戸アンケートを実施するなどして、一年間かけて、今後の活動の担い手、働きながらできる自治会活動内容などを検討した。
- ・町内会役員になる人材の確保が難航している。役員会で検討しお願いに回るが、なり手がいない。他町内の状況について共有したい。
- ・近年、定年退職後も再就職する人が多くなり、自治会活動への参加をお願いしても断られる事が多くなっている。自治会活動は、自分の住む地域の課題に取り組んで頂くことであり、経済活動と両輪に近いものでないか。しかし、現状では、既存の役員との重複で乗り切っている。
- ・住民会役員は高齢者が多い為、公民館主事 30 代も住民会役員と一緒に行事運営に関わるようにした。若い世代の情報を聞くことで、次の人材確保につながる。

その他

- ・若い人が先細りの小さな町内会なので、青年部も新たに組織したが、年々人数が減少し出席率も急落し今や青年部まで壊滅状態。その後世代も人口減少で組織化が出来ない。

地域課題③ 情報発信と会員確保

★具体的取組の例

- 住民自治組織の存在意義や役割、活動等を広報紙のほか、ホームページやSNSを併用して発信
- 転居者や未加入者、アパート家主などへの加入勧誘

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	66	42%
取り組まなかった	84	54%
無回答	6	4%

具体的取組とその効果など

- ・「事業経過報告」を作成して隣組回覧し、町内会の活動を会員に周知した。
- ・転入者への入会案内、新規事業者への賛助会員加入の働きかけを行った。
- ・転居者には町内会長が訪問し会員として加入勧誘を実践し効果を上げている（入会案内時、町内会会則・住民名簿用紙・個人情報取扱規程等を持参し説明している。）。
- ・回覧板を有効に活用し、適切な時期に適切な情報を町内会員に届けた。
- ・町内会だよりを発行し情報発信している（発行頻度は、組織によって年4～12回。）。
- ・町内会だよりにホームページのQRコードを掲載し、アクセスしやすくした。
- ・会員確保は現在問題ではないが、町内への転入者があった際の情報を役員や組長に依頼している。
- ・町内会の事業参加の可否についてはメールが定着しつつあり、情報が入手しやすくなった。
- ・すべての会議について議事録を作成し、参加者に配布し共有化することから始めている。
- ・毎月発行の町内会報で、町内会活動、学校生活等での子供達のがんばり、町内各団体の活動の紹介など身近な情報を発信している。
- ・行事の案内を、隣組回覧を主にしていたが、「若い方たちが見ないうちに回してしまい情報が伝わらない」、「手元に残る情報がない」、「回覧の枚数を減らす」などを考慮し、毎月15日付けで翌月のイベントなどの情報を1枚にして全戸配布しているが、賛否両論あり。
- ・町内会の役員会等の議事録を回覧か全世帯配布を継続している。定期に毎月発行する広報等は逆に負担になるのでやっていない。
- ・高齢化や独居が今後も進むと思われる中、気軽に声かけや対応ができるような雰囲気づくりを心が

けている。また、会員の小さな意見でも自治会の課題として取り上げ、問題解決に取り組んでいる。

- ・生活インフラ情報や地域情報、そして教育情報など、地域住民に知ってもらいたい情報はなるべく情報誌として全戸配布に努めている。
- ・隣組長会を開催し、各組の状況や要望、情報を寄せていただき、課題や問題点の解消につなげることができた。
- ・住民会のイベントの連絡紙を見易いように工夫した。従来は、文字だけだった為、他の用紙に紛れ込むことで、連絡紙が届いていないとの話が有ったが、文字、図に色を付ける事で、届いた時点で確認出来ていると多く聞かれた。

その他

- ・町内会だよりを発行しているが、負担軽減のため、発行回数を減らした（3年度4回→4年度2回）。
- ・町内会費が高いから払うのを休むという人が出てきた。地区の平均から見ても決して高くはないので、町内会としては困っている。

地域課題④ 地域課題の解決に向けた取組の実施

★具体的取組の例

- 課題の把握と共有のための、気軽に話し合える雰囲気や場づくり
- 有償ボランティアの検討など、課題解決に取り組むための新しい事業等の検討
- 関係組織・団体との連携や広域コミュニティ組織との役割分担など課題解決に取り組むための仕組みづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	65	42%
取り組まなかった	84	54%
無回答	7	4%

具体的取組とその効果など

- ・ゴミ分別の啓蒙をするため、ゴミ出しの実態調査を年2回各3週間行い、結果の報告と違反ゴミ持ち帰りの啓蒙文書を回覧した。
- ・学区自治振興会と連携し、高齢単身世帯の冬季除雪ボランティア活動を4回実施した。
- ・1人暮らしの高齢者宅、町内の消火栓、ゴミステーションの除雪を町民で役割分担して行った。
- ・ゴミの出し方について毎月町内会だよりにて発信し協力を依頼した。
- ・高齢者世帯が増える中、若い世帯の転入者もあり、隣組を単位に相互のコミュニティ作りと助け合いを深める取組を行った。
- ・おかげさま券…一つの隣組（35世帯）で、高齢者世帯の除雪や軽作業（ゴミ出し、買い物、電球交換、家具移動など）を支援する取り組み。当初無料で実施したが、現在は有料。100円券10枚を発行。令和4年度の実績は、除雪が少なかったこと、購入していた高齢者世帯の減少もあって100円券で2,000円。収入は隣組で行事があるときに支出、運営の主担当は隣組の防災担当者が担う。
- ・まちづくり座談会…まちづくり等いろいろな活動にかかわる方をゲストに迎えて話を聞く会。令和4年度は3回実施。社会福祉協議会の学区担当による空き家の利活用、災害時の隣組の避難困難者への対応のほか、他地域の民生委員による講演では高齢者の見守りについて話し合われた。
- ・ラジオ体操を始めて14年目。5月から10月まで公園で実施。近隣の町内からの参加者も含め1日30人を超える。挨拶や会話があり繋がりもできて心も体も元気に体操を楽しみ、参加者の中での安否の確認等の行動も見られる。またラジオ体操愛好会が主導して、使用する公園の清掃活動も行っている。
- ・週1回の町公民館での「百歳体操」に高齢者15人ほどが楽しみに通っている。「階段の上り下りが楽に」、「転倒しにくくなる」などの効果が期待される。コロナウイルス感染の状況を見ながらの開催、延べ400人を超える参加となった。

- ・隣組長と役員の手合会議を3回開き、少人数での自由討論を行った（ワークショップ形式）。
- ・高齢者組織との話し合いで地域課題を明らかにした。
- ・63年間続いた冬季レクリエーション大会について、高校生以上を対象に存続についてアンケート調査した結果、廃止の選択が過半を占め廃止となった。この結果、冬期間の役員負担の軽減に至った。反面、地域交流の場が一つなくなった。
- ・高齢世帯の玄関から道路までの除雪を隣居住人と住民会役員にて手伝い、ゴミ出し困難の時は声をかけていただき手伝いするようにしている。
- ・子供会主体の資源ゴミの回収を、子供が少ないため住民会役員にも協力頂き、春と秋の2回実施。
- ・祭事の内容について、将来の人員削減（特に若者）対応での有り方・進め方の見直しに着手
- ・多くの住民が参加するよう福祉座談会と芋煮会を同時に開催し住民の情報交換と地域課題の把握に努めた。
- ・定期的に組長会議を開催し、当面の地域課題の聞き取りを行った（外灯設置要望、役員の選任方法の見直しなどの意見が出され、継続課題とした）。
- ・耕作放棄地が増え始めイノシシが住み着いて荒らしているのを、地域資源保全活動前の勉強会を開催した。

地域課題⑤ 災害に備えたコミュニティづくり

★具体的取組の例

- 会員情報の把握と顔の見える隣組の関係性の構築
- 災害時に、声掛けや安否確認、避難誘導を行うことができる体制づくり
- 市の災害時避難行動要支援者支援制度に基づき、名簿提供に同意した要支援者の個別避難計画を作成
- 空き家情報の把握と市への情報提供

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	86	55%
取り組まなかった	67	43%
無回答	3	2%

具体的取組とその効果など

- ・市の災害時避難行動要支援者制度に基づき、各名簿提供に同意した要支援者の個別避難計画を策定した。
- ・自主防災計画書に基づき防災備品の充実を町内会予算に防災費として計上し、少しずつ整備している。今年度は発電機1台（ガソリン使用）を購入し自家発電供給体制を強化した。
- ・避難時に支援が必要な住民をサポートするサポート隊を結成した。地域内福祉施設と合同避難訓練を実施。
- ・町内会に自主防災計画が無かったので作成を開始した。令和5年9月の防災訓練までは完成させ、20ページ位になりそうだが、全戸配布する予定
- ・災害発生時に使用する”SOS”の掛札を全戸に配布し、災害発生時に避難する時は、玄関若しくは見え易い場所に掲示する様に指導し、災害発生を想定した訓練を行った。実際に掲示した家庭は30.1%に過ぎなかった。
- ・地区防災計画を策定し、防災訓練時に内容を説明し周知した。また、町内会独自で一次避難所の契約を福祉施設と提携した。
- ・避難訓練をコミセンで実施。災害時の避難について、避難者カード方式の受付や避難者を加えた設営、隣組での安否確認のグループ討議、2種類の段ボールベッド組み立てを実習した。
- ・コロナウィルス感染を考慮し、公民館で、隣組長、隣組防災担当、自主防災隊員に限定して、市の

防災アドバイザーを招き「出前講座」開催、避難所開設状況や開設までの流れ、運営について講演いただき、簡易ベッドの設置を実習した。

- ・町内会家族票（世帯台帳）を提出してもらうとともに適宜更新した。非常時には大変役立っている。
- ・学区コミセンの避難所開設運営訓練に防災部員を積極的に派遣した。
- ・町内会防災安全部を中心に、防災組織を見直し、会員全員が災害に備えられるような体制作りを行っている。
- ・鶴岡市自主防災組織指導者講習会及び山形県自主防災組織リーダー研修会を町内会員が受講した。
- ・住民会自主防災会の組織図を作成し全戸に配布
- ・不定期に住民会正・副会長で住民会内を見回りして危険箇所等の状況確認や道路の補修等を行っている。
- ・住民会役員にて災害時の動きを話し合った。令和 5 年度自主防災の災害行動要領を作成（平成 26 年度のもの廃止）。
- ・市の防災安全課職員を講師に、土砂災害に関する防災教育の出前講座を開催し、土砂災害に対する防災意識の醸成と危険箇所の周知を行った。
- ・地区社会福祉協議会と町内の防災台帳を作成し災害時に手助けの必要な世帯を決めた。これに従い町内の応援体制を考える。
- ・地域座談会を開催し、市職員を講師に迎え災害時避難行動要支援制度を勉強した。住民の中には要支援を希望する者や積極的に支援を希望する者もあった。
- ・町内に自主防災組織を設けてあり、年 1 回防災訓練（座学等含む）を行っている（3 年間は開催できていない）。

その他、今後取り組みたいこと等

- ・組織作りが困難。人数の確保が出来ない。
- ・役員会の中で町内で危険と思われる事柄や普段気になっている事柄が話題に上がるようにはなってきたが、高齢者世帯のケアなどの情報出しが専門部内や民生児童委員の役割の範囲にとどまり、町内会事としてのレベルに上がっていないと感じている。
- ・コロナで避難訓練はできなかった。高齢者が多いので誰がどの方の支援を行うのかバディを決めている。来年度は、各家庭の玄関先まで避難をしてもらい安否確認をするといった訓練を行ってみたい。

地域課題⑥ 「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり

★具体的取組の例

- 子どもの頃から地域の自然や歴史、文化、伝統、産業等への理解を促すような機会づくり
- 開催日や運営形態等を工夫し、若い人材の確保や大勢が参加しやすい仕掛けづくり
- 子どもから高齢者まで世代を超えたつながりの創出

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	41	26%
取り組まなかった	109	70%
無回答	6	4%

具体的取組とその効果など

- ・毎年開催している「地藏尊祭」の際に、町内会の名前の由来となった地藏尊の民話を要約したチラシを配布し、歴史を将来に引き継ぐ取り組みを行った。
- ・小学生が、神社への秋例祭で、十数年前まで行っていた謡の衣装を着用し、地域の伝統に触れるこ

とができた。

- ・福祉施設の敷地に町と共同の菜園を作り、収穫した野菜を利用者の昼食に活用した。
- ・隣組を月毎に分担して、毎月1回、公園の清掃活動を行い環境美化整備を図っている。
- ・子供達に故郷の思い出をとの思い出から、「みかぐら」を、小学校5年生から高校3年生まで、夏休み朝6時から8時まで1週間通して練習している。今年度は大学生3名も駆けつけ後輩の指導に当たった。夏祭りの発表も全学年に加え大学生も踊り大盛況でした。冬祭りでは子供達も一緒に臼と杵で餅つきをして美味しく頂いた。夏と冬、中学生の奉仕活動もある。
- ・多面的機能支払交付金活動をベースとした活動により、集落全員による花々の植栽やゴミ拾い、除草作業等の環境整備を行った。
- ・伝統行事（神社・祭り）の継続に向け、住民が参加協力出来る様に簡素化を図った。
- ・3か所のゴミ収集所にフラワーポットを置き美化活動を行った。また、河川や道路わきの草刈りなどを行った。
- ・地域の歴史や伝統文化に理解を深める活動への協力（小学校の地域めぐり学習への対応協力）

その他、今後取り組みたいこと等

- ・コロナ禍による制限から、一番取り組みたかった共助のための隣組内の親睦の輪づくりを実行に移すことができなかった。
- ・今後、一人暮らしの高齢者に定期的に訪問し困りごと相談に乗っていく。
- ・少子高齢化社会の中、イベントへの参加も高齢者が多くなっているため、若い世代も一緒に楽しめる体制作りやイベント内容の見直しを提案して行きたい。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・R4年度は会員の移転等で会員数が減少し、今後増える見込もなく、隣接の町内会との合併なども検討が必要かもしれない。
- ・役員の担い手不足。役職の兼務が増えて、一部役員の負担が増加
- ・コロナにより懇親会や行事がなくなり、役員同士・役員と町民のコミュニティ力が弱くなってきた。
- ・高齢者が増え民生委員が一人では大変そうである（担い手がなく困っている）。
- ・夏祭りの売店を隣組単位で担当していただいていたが、負担が大きいということで、新たな方法を考えなければならない。
- ・少子高齢化及び過疎化により町内住民の減少が著しく、町内会運営も困難な状況となっている。今後、10年先20年先には限界集落となる事も十分予想され、一町内会だけではこの状況を好転させること難しく、行政による何らかの対応を切に願う。
- ・少子高齢化が進み、5年後、10年後の住民会のありかたを次世代の人達と論議できていない。
- ・空き家・空き地が増えて、その相続者が他県在住などで放置家屋・放置空き地になって防犯上も困っている。
- ・子供がいる世帯が少なく、地域活動の入り口である子供会活動が休止状態であり、さらに勤労世代の価値観の変化、地域への帰属意識の低下により地域活動に消極的になっている。このため、役員のなり手、地域活動の主体が高齢者になり、町内会活動の活性化につながる発想や企画が生まれにくい環境になっている。
- ・高齢化が進み、輪番的に行ってきた組長を担えない状況が多くなっている。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・除雪ボランティアなど高齢者の生活支援体制づくりを推進したい。
- ・令和5年度に向けて世代間交流集会検討
- ・隣組の親睦交流と若手中堅世代との交流（小中学生のお子さんをお持ちの層）
- ・これからの町内会活動の重要活動の一つとして、隣組内でのコミュニティを更に深めて助け合い精神を強化するために隣組会議の推進に取り組む。
- ・特別な技能を持っている町民の方を先生としてワークショップを開く。
- ・地域文化財の探求
- ・交流事業の実施…町内6組、組毎に交流事業に参加した世帯には助成金を出し、大いに盛り上がりてもらう（高齢者福祉及び災害時は近隣住民が一番の手助けとなる。）。
- ・住民の高齢化に伴い、活動や事業のあり方に工夫が必要。気軽に参加できる集いの場的な行事を増やし、交流の場を確保したい

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・20年前、30年前と比べて個々人で旅行も趣味もできる世の中になってきたので、「横のつながり」「助け合い」の必要性を考えない人が多いように思われる。
- ・住民主体の地域づくりの実現に向け、市はどういうことを提案・支援できると考えているのかの部分をアンケート解析の後に示して欲しい。
- ・まち活通信の発行回数を増やして市からの情報発信を密にしましょう。
- ・高齢者世帯が益々多くなって来て、今までの民生児童員制度（約300世帯に1人）では対応しきれない状態である。更に深刻な問題になるので（現状でも3人位は必要です）、早急に改善するよう取り組みを願う。
- ・各集落での住民会・公民館活動は、人口減少と少子高齢化と空き家の問題解決には、不可欠なものと考えられる。地区をひっばってまとめて頂く地域コミュニティからの市への情報提供と活性化活動に期待し、応援していきたい。
- ・少子高齢化の波は抗うことの困難な問題である。住民サービスの軸足を、そこに住み続ける方々が安心して暮らせる環境づくりに置いてほしい。
- ・地域振興課のまち活を利用しての地域内環境の改善を計画している。環境の保全などは少しずつでも協力しながら取り組めそうだが、昨年の防災訓練の実施を踏まえて防災関連の備えが十分でない印象を持った。市全体を見渡してのガイドラインを作成頂いて、支援策の提示や整備を促進していくような取り組みが、一層拡充されても良いのではと感じた。
- ・町内会に鶴岡市の様々な部署から案内、申請書などの書類が届く。種々の依頼をまとめた一覧を作成して頂きたい。市役所内の縦割りを改善して横の繋がりが出来たらと考える。
- ・行政の下請けでなく自治会としてやるべきことをスクラップ&ビルドする時期に来ていると思う。
- ・300戸を超える町内会においても役員のなり手不足の状況にある。行事や活動、広報を通して町内会活動への興味関心を高めようとするものの、運営側に立って推進しようとする意識を持っていたくのはなかなか難しい。運営組織改編の必要があるのではないかという思いはみんなが持っているものの、じっくりと話し合う機会がなかなか持てないでいる。

地域課題① 時代の変化に適応する運営や事業展開と持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 事業の棚卸し、事業内容の見直し
- 学区・地区の現状に応じ、各種団体等との連携強化
- 事務局職員や地域活動の担い手が研修会へ参加し、地域活動を支え、つなぐコーディネーション力等のスキルの向上
- 地域を引っ張るリーダーや中核的グループなど多様な人材の発掘、集結及び育成
- 広報紙のほか、ホームページやSNSを併用した情報発信・情報収集の強化
- SNSの活用など新しい生活様式の導入

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	19	90%
取り組まなかった	2	20%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・組織の専門部に小学校 PTA の会長、副会長が所属することとなり、コロナ禍でも各事業をほぼ行い、活動をとまることができ地域とのつながりを深めることができた。PTA も主体的に動いており、このつながりを大事にしていきたい。
- ・若い世代で結成したグループで話し合われた様々な企画を実践する中で、地域の活性化に向けた意識やメンバー同士のまとまりもできてきている。楽しくをモットーに今後もさらに仲間を増やし、地域づくりに向け趣向を凝らした事業を応援していきたい。
- ・世代、立場を超えて地区について語り合うワークショップを行い、課題の解決に高校生からも参加していただき、第一歩としてフォトイベントを開催することとなった。
- ・Facebook、Twitter、Instagram でコミセン等で行った事業の様子を住民に発信した。毎月発行の「コミセンだより」にも QR コードを掲載し、災害発生時の情報提供にも活用しようと住民に登録を呼びかけているが、なかなか増えていない。
- ・各組織・団体の役員数の見直しを行い、業務量を考慮しながらスリム化に取り組んだ。
- ・コロナ禍における事業展開、特に、体育イベントのあり方について、アンケート調査や評議会での検討を重ね、地区住民が参加しやすい運営方法を模索した。
- ・事業の棚卸し、コロナ禍における事業内容の見直し
- ・運営委員と次世代グループリーダーとの意見交換の場を設け、連携強化を図った。
- ・自治会役員のほか福祉、防災、地域ビジョンなど各担当部門で LINE グループをつくり、連絡等のペーパーレス、迅速化と情報発信・共有を図った。
- ・若者の事業参加を目的にモルック、ボッチャ、e-sports 等の新しいスポーツ大会を企画した。今後に繋げる為に継続していきたい。
- ・持続可能な共助のための組織として、有償の除雪ボランティア隊を編成した。
- ・女性部会を設ける等、女性の声を反映しやすい環境づくりに力を入れている。

その他、今後取り組みたいこと等

- ・将来を見据えた会費の有り方について検討して行く。

地域課題② 「地域ビジョン」策定など地域課題解決に向けた取組の強化

★具体的取組の例

- 地域の現状と課題や魅力、価値を共有するワークショップの実施
- 有償ボランティアの検討など、課題解決に取り組むための新しい事業の検討
- 課題解決に取り組むための仕組みづくり（関係組織・団体との連携や組織体制の見直しなど）
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	13	62%
取り組まなかった	8	38%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・高齢化に向けた対応について、福祉部を中心に、町内会および福祉協力員並びに民生児童委員との連携を図る協議の場を設けた。また、包括支援センターとの情報共有についても協議の場を設けた。
- ・高齢者世帯（一人暮らし、障がい者世帯も含む）の除雪支援として「お助け人」事業を立ち上げ、支援活動を行った。
- ・地域版おたがいさま見守りネットを見直し、普段の暮らしの“見守り”手引きシートを作成し全戸配布した。
- ・「日めくり防災カレンダー」を作成し、地区全世帯へ配布した。地区の写真を背景に、地区の言葉でいざというときの行動を意識づけさせている。
- ・高齢者の「買い物支援」「通院支援」を、どういう形・方法がいいのかを地域ビジョン推進チームにて検討に入った。
- ・地域ビジョンの完成報告会を開催し住民等への周知を図った。鶴岡地域まちづくり未来事業で SNS 教室や地域資源選定を行うとともに、環境美化活動やフリーマーケット等の実施計画づくりに取り組んだ。

その他、今後取り組みたいこと等

- ・策定した「地域ビジョン」を具体的に実践するには地域への啓発がまだ十分とはいえず、SDGs の到達目標を視点にした活動計画をつくり、単位組織が連携して持続可能な地域づくりを進めていくよう、令和 5 年度から具現化していく。
- ・地域カルテの作成と分析、意識の共有化に優先して取り組みたい。

地域課題③ コミュニティ防災のまちづくり

★具体的取組の例

- 被害情報の収集・伝達と避難所運営等を担う自主防災体制の確立
- 安全・安心、防災等共通課題をきっかけとした広域コミュニティ組織の連携

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	19	90%
取り組まなかった	2	10%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・学区防災団本部要員対象の避難所開設訓練を実施し、各部毎に手順・課題の確認を行った。
- ・小学校体育館が地震の際の基本的な避難場所として指定されている町内会で避難所運営委員会を組織して避難所運営訓練（地域防災訓練）を実施した。6月に9町内会で説明会、7月から毎月打合せ会を行って進めた。訓練では、他町内会の参加者が避難者役となり各運営班の動きを見て回った。初めての住民主体の運営訓練だったが、今後に繋がるとても良い訓練となった。委員会を組織した町内会で、体育館で町内会合同訓練を計画する例も出ている。次年度は別の施設で避難所開設・運営訓練を実施したい。
- ・女性対象の防災研修会を初めて実施した。料理をする機会の多い女性にスポットをあて、油火災の消火法、アイラップを使った炊き出し法を実際に行いとても有意義であった。今後も実施していきたい。

たい。

- ・地区自主防災計画を更新した。防災資機材（ハンドメガホン、腕章、消火バケツ）を購入し、コミセン及び住民会に配備し、防災意識が向上した。
- ・自治会長会において、防災意識に関するアンケート調査を実施した。市防災安全課からのアドバイスのもと、出来るところから防災体制の整備を進めることとした。
- ・防災研修会の開催、各町内への防災アドバイザー制度の情報提供など、積極的に各町内会での防災組織編成を促した。
- ・年2回の「津波情報伝達訓練」を実施した。また、例年どおり、福祉員協力員や自治会役員の協力を得ながら「防災福祉マップ」の更新を行った。
- ・地区の自主防災協議会を中心に避難路点検や整備を行うとともに、避難路誘導看板を設置した。
- ・世帯別避難行動カルテの作成調査を行い、取りまとめを山形大学に依頼し、講師を招聘しカルテから考える津波避難について防災研修会を開催した。

その他、今後取り組みたいこと等

- ・発災時の各町内会とコミセンの連絡体制と、防災団本部要員の連絡体制について、アプリを活用した連絡網の構築を検討していく。

地域課題④ 単位自治組織の機能補完

★具体的取組の例

- 単位自治組織と広域コミュニティ組織の機能補完・役割分担等の検討
- 単位自治組織が行う諸事業へのサポート

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	7	33%
取り組まなかった	14	67%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・二世帯住宅や新興住宅の会員が増えてきたこともあり、自治会費の区分の設定や消防団への交付金の水準、自治会収支構成等の情報共有を図り、自治会運営の参考としてもらった。
- ・高齢者見守り対策として、民生委員の協力のもと「困りごと・何でも相談カフェ」等を自治会単位で実施した。
- ・イベント等で、各町内会に参加者、協力者の割り当て人数を提示して事業を開催し、多くの方々とふれあい、地区のまとまりが出来た。

地域課題⑤ 地域資源を活かしたコミュニティビジネスの検討

★具体的取組の例

- コミュニティビジネスの取組に向けた検討
- 事業を通じて自分が必要とされている喜びや達成感・生きがいを感じる仕掛けづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	8	38%
取り組まなかった	13	62%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・地区の特産物の加工品づくり
- ・地域の歴史文化の掘り起こしと整備を行い、散策等の実施により活性化を図っていく。
- ・漁業の維持・発展と特産品開発などの新たな産業おこしに向けてプロジェクトチームを立ち上げたが、コロナ禍とメンバーの都合が合わず、全く進んでいない。
- ・市有施設を借用し、自治会活性化委員会（当広域コミュニティ組織も構成団体）が運営主体となり、釣堀やカフェ等の運営を行っており、交流人口の拡大や雇用確保につなげるとともに、その収益の一部から寄付を受けた。
- ・昨年に続き、地区の歴史をまち歩きで体験してもらうガイド活動を行った。

地域課題⑥ 「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり

★具体的取組の例

- 学校と地域が連携し、地域の自然や歴史、文化、伝統、産業等への理解を促すような機会づくり
- 放課後子ども教室等を活用した、子どもたちの郷土愛を育む地域教育活動の実践
- 地域と学校の連携・協働によるコミュニティスクールの導入と地域学校協働活動の推進
- 小学校が統廃合した地区における交流機会の創出

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	16	76%
取り組まなかった	5	24%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・コミセンで対話する事業の多くが変更となったことから、広報誌において、町内会の日常活動の紹介やスポ少の活動など、地域の元気を伝える紙面を心掛けた。
- ・鶴岡地域まちづくり未来事業で製作・設置した学区の文化財説明板をもとに毎月コミセンニュースにシリーズで文化財紹介を行い、好評だった。また、製作した祭と文化財のリーフレットや地域の良さを紹介する冊子を随時配布し、住民に発信することができた。
- ・ウォークラリー大会をコースを変えて実施し、コマ図を頼りに親子でまわり、橋の由来や普段見ることの出来ない文化財にも触れ、学区の歴史・文化を再発見をすることができた。次年度もコースを変えて生涯学習部事業として実施する。
- ・広域コミュニティ組織が助成し小学校が企画運営するふるさと少年少女教室を毎年行っている。
- ・コミセンの事業で幼稚園児や小学校児童と高齢者が交流する機会を設け、子どもが地域の大人との関わりを大切に感じられるよう取り組んでいる。
- ・各自治会の文化財巡りを毎年行いながら、地元の再発見に努めている。
- ・地区で開設した子供や子育て世代が集える場に、地区の子ども達に加え、地区出身の親が子どもを連れて集まって来てくれている。また、サポーターとして60代の若き高齢者が応援に入ってくれ賑わいを見せている。
- ・放課後子ども教室を開設し、地域のスタッフが子どもたちへ様々なプログラムを通して、地域に愛着を持てるようにサポートした。
- ・県の助成を活用して地域に伝わる伝説のパネルを設置し、地域の歴史・文化の発信に取り組んだ。また、伝説をもとに交流が続く県外のまちへ親善訪問団を派遣し、友好の絆を深めた。
- ・まち中の環境整備に力を入れており、家から歩いていける距離に立ち寄れる場を作った（日和山、古道など）。
- ・半世紀にわたる少年教室で地域の学びを実践している。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・ 少子高齢化、人口減少、空き家の増加等が急速に進んでいる。ライフスタイルや価値観の変化も著しく、地域への愛着や帰属意識の低下に加えてコロナによる行動規制があったこと等から、住民間の絆が薄れ、地域力の弱体化が危惧されている。
- ・ 全国的に大規模な自然災害が頻発しており、広域コミュニティ組織と町内会の連携のもとに、「自分の命は自分で守る」という防災意識の啓発と、災害弱者と言われる方々を協働で守る仕組みづくりが重要と考える。
- ・ コロナ禍で活動制限が3年続き、様々な活動が継承困難になっているのではと感じるとともに、地域コミュニティも希薄になっているのではと危惧される。
- ・ 少子高齢化、若者の地元離れや次世代の担い手不足、労働年齢が高くなり高齢者でも仕事しているため、平日の日中での会議は人集めが大変である。
- ・ コロナ禍と個の時代で色々な事業への参加者の減少、お互い様の助け合いの精神が無くなってきている。
- ・ 地域活動の担い手不足による自治組織機能の低下
- ・ 地域の人が集う祭りや行事など、新型コロナの影響により開催できないのが当たり前になりつつあり、無くて困らないような風潮が広まる傾向がある。
- ・ 高齢化が進み、事業への参加も消極的になってきている。また若い世代も仕事の都合上（夜勤、土日出勤など）で、なかなか人数が集まらない。
- ・ コロナ禍のこともあり、若い役員では、大人数での会議には出席しないように職場から言われて会議に出席できない役員が多い。又、コロナ禍で行事等出来ないのではないかと消極的意見が多く、大きな行事等出来なかった。
- ・ 高齢者の一人暮らしの方が多くなり、冬場の「除雪ボランティア」も検討しなければならない。
- ・ 少子化。小学校がなくなったことにより、若い世代の家族が他地域に引っ越してしまう。世帯数が減るばかりか、若い世代も少なくなり、役員の高齢化が課題。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・ 30代～50代の働く女性が参加できる講座等を開催したい。
- ・ 34年間続けてきた伝統あるリーダー研修会に変わる事業を検討中。今の時代に合った事業を考える。
- ・ 地域資源、人的資源を活かしたコミュニティビジネス
- ・ 地域まちづくり未来事業プロジェクトの取組み(地域文化と自然の再認識と新イベント)
- ・ 竹林の保全を請け負う組織の立ち上げ
- ・ 今後を見据えた「買い物支援」「移動ささえあい」の維持発展
- ・ 地域ビジョンの計画に基づき、地域公式LINE開設、地区マップ制作、環境美化、フリーマーケット開催等の事業に取り組んでいきたい。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・ 若い方は独自の生活感があるため個人ではなかなかコミュニティ活動に参加してもらえない。息の合う友達とか同じ趣味を持っているメンバーなどいれば協力してもらえるのではないだろうか。そのきっかけがつかめない。

地域課題① 各世代が参加しやすい活動に再構築

★具体的取組の例

- 日常的に近隣同士が気軽に会話できる雰囲気や場づくり
- 各世代が単位自治組織活動に参加しやすい雰囲気や場づくり
- 子ども会や中高生などの若い世代、あるいは高齢者団体等が、それぞれの年代だけでなく幅広い年代を対象とする事業を企画・運営し、交流を広げる
- 住民自治組織の存在意義や役割、活動等を広報紙のほか、ホームページやSNSを併用して発信

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	21	45%
取り組まなかった	25	53%
無回答	1	2%

具体的取組とその効果など

- ・子供から高齢者まで、幅広い年代層が参加可能な軽スポーツ大会等を企画・運営し交流の輪を広げることができた。
- ・高齢者世帯が多い中で「老人クラブ」との交流に心がけた。一方で、小学生・中学生とその親から参加してもらえない行事ができなかった。
- ・小学生を中心に親子レクリエーション
- ・農地水植栽事業、公園草刈、公民館清掃、町をきれいに、子供会事業（教育奨励進級祝）
- ・毎月10日にお茶のみサロンを開催。運動やお茶を飲みながら親睦を深めている（高齢者対象）。
- ・新年祝賀会を昨年度に引き続き実施できた。若い世代の参加が多かった。一方、コロナ禍の影響でビアガーデンは実施できなかった。
- ・防災訓練を実施し、消防団、女性の会、老人クラブ等いろいろな方々の役割分担ができた。

その他

- ・各世代が、参加できるような事業（夏まつり）等を役員・老人クラブ・育成会等と協議したが、コロナウイルスの感染状況を考慮して中止とした。

地域課題② 将来を見据えた持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 既存事業の見直し
- 隣組や班などの統合再編など組織の見直しや、役員構成の見直し
- 現役世代が参加できる役員体制と共通認識づくり
- 将来を見据えた会費のあり方の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	24	51%
取り組まなかった	22	47%
無回答	1	2%

具体的取組とその効果など

- ・各事業評価を行い、事業内容及び組織体制の見直しを行った。
- ・町内会費について、減免内容の見直しを検討した。
- ・コロナで停滞しているが、後継育成研修費を予算化している。

- ・現役世代が参加できる役員体制の構築
- ・高齢者のみの世帯や単身世帯の把握調査を行った。
- ・町内会自主防災計画を作成した。
- ・町内会における組織の見直しや、次期役員の検討をするために、運営委員会を実施。今回は、歴代町内会長にも出席していただいた。

地域課題③ 広域コミュニティ組織との連携による事業内容の見直し

★具体的取組の例

- 既存事業の見直し
- 広域コミュニティ組織等と連携しての生涯学習事業の実施
- 多様な媒体を活用した事業周知、年齢層やライフステージを意識したPR活動

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	11	23%
取り組まなかった	35	75%
無回答	1	2%

具体的取組とその効果など

- ・地区自治振興会の「地域ビジョン」の策定の取組みに参加した。

地域課題④ 広域コミュニティ組織と一体となった安全・安心な体制づくり

★具体的取組の例

- 自主防災計画の見直しなど自主防災組織の機能点検の実施
- 定期的な防災訓練の実施
- 緊急時や災害時に備えた住民情報の収集とその適正管理
- 地域における防犯意識を高めるための啓発活動の実施
- 学校、保護者、単位自治組織、広域コミュニティ組織、地域団体との連携による「見守り隊」活動の実践
- 空き家情報の把握と市への情報提供

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	25	53%
取り組まなかった	21	45%
無回答	1	2%

具体的取組とその効果など

- ・自主防災計画・組織体制の見直しを行った。
- ・災害時避難行動要支援者の個別の避難計画を作成した。
- ・空き家管理について、情報の把握、市との連携を図った。
- ・各組織と連携をとりあって情報交換を密にした。
- ・町内会役員で防火水槽の保守点検、水源確保するための堰止め機材の作成
- ・自主防災事業を見直し、5年度へ継続の方向が確認された。
- ・定期的に防災訓練を実施した。
- ・地域事業の防災研修視察に参加。意識が高まった。

地域課題⑤ 地域福祉を近隣の輪で支える体制を再構築

★具体的取組の例

- 高齢者単独世帯への声掛けなど、普段からのコミュニケーション構築
- 高齢者の方々の知見と経験をいかす地域福祉活動
- 有償ボランティアの検討など、持続可能な地域福祉の構築
- 単位自治組織と広域コミュニティ組織との機能・役割分担会議の開催
- 課題や将来像を共有する場づくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	18	38%
取り組まなかった	28	60%
無回答	1	2%

具体的取組とその効果など

- ・除雪・公園清掃等のボランティア活動の推進・育成
- ・長寿を祝う会（コロナ仕様）の実施
- ・老人クラブへの活動助成
- ・高齢者単独世帯への声かけ
- ・育成会、老人クラブによる町内会一斉清掃
- ・高齢者の方々の知見と経験をいかす地域福祉活動
- ・一人暮らしの高齢者宅やスクールバス待合所の除雪について、民生委員・児童委員との話し合いの場で、現状の認識を共有し、対策について理解を深められた。
- ・課題や将来像を共有する場づくり

地域課題⑥ 「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり

★具体的取組の例

- 子どもころから地域活動に関わることができるように、開催日や運営形態等の工夫
- 伝統行事や伝統芸能への理解促進と継承活動の支援

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	18	38%
取り組まなかった	28	60%
無回答	1	2%

具体的取組とその効果など

- ・町内会全員参加型のストリートビアガーデン
- ・収穫感謝祭
- ・子どもころから地域活動に関わることができるように開催日や運営形態を工夫した。
- ・子供獅子、子供神輿等、地域活動に関わることができるように、理解と継承活動の支援を行った。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・令和5年度総会において、コロナ禍前の状態に戻す対応にすることとした。飲食は自由とした。
- ・会員の高齢化が進み、高齢者の1人世帯、高齢者のみの世帯が増加している。また、年々空家件数が増加している。
- ・2年で役員が交代することから、年配者はどんどん役員を終えているため、会社勤務をしている現役世代が役員をせざるを得ないという役員の低年齢傾向と、会社（社会）の雇用期間の高年齢傾向により自治会運営が難しい。
- ・獅子踊り後継者難、空き家の荒廃、支障木管理
- ・世代間での町内会に対する考え方が全く異なる。
- ・消防団員が不足なので、近くの町内会と一緒にしてもいいのではとの意見がある。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・令和4年度、緑化事業交付金を活用し、新たに整備された藤島駅周辺市道の歩道に花を植栽する環境整備事業を、役員で実施した。令和5年度から、町内会員からボランティアを募集し、継続性のある環境整備事業として取り組んでいきたい。
- ・世代間交流事業
- ・健康教室
- ・鶴岡市避難行動支援者個別計画への取組み
- ・文化祭の実施に取り組みたい。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・2年間町内会長をしたが、コロナ禍のためほとんど何もできなかった。次の会長には少しずつ行事を取り戻してくれることを期待する。
- ・人口減少や就業構造の変化、地域の結びつきが希薄になった今日、町内会が単独で計画しても事業を行うことができないため、自治振興会が行う町内会対抗行事等の事業に参加することで町内会の結びつきを保ちたいので、自治振興会の行事に期待する。

地域課題① 地区自治振興会を核とした活動の推進

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ組織の維持と活動内容のPR
- 各種団体・組織の統合・再編の検討
- 地域コミュニティの実態を把握するための調査の継続実施
- 住民の声を反映した「地域ビジョン」の策定
- 各種団体組織（広域コミュニティ組織、単位自治組織、社会福祉協議会等の団体）による情報交換会の開催、連携に向けた検討
- アドバイザー職員による行政側の情報提供、地域課題の情報収集、解決に向けた取組支援

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	80%
取り組まなかった	1	20%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・全戸配布のセンターだよりで、活動内容を定期的に周知
- ・町内会長、民生児童委員との懇談会、情報交換
- ・自主団体（花を愛でる会）が取り組む館内外の環境整備（生け花、花の植栽）
- ・地区内各町内会の高齢者組織の連携組織づくりを目指し、話し合いの場を設け、令和5年度発足への道筋を構築した。
- ・地域ビジョン策定に向けた会議等を開催し、地区住民の意識啓発に取り組んだ。

地域課題② 持続可能な運営方法の確立

★具体的取組の例

- 会費のあり方の検討
- 住民合意に基づく活動の優先順位付けや内容の見直し
- 地域資源を活かしたコミュニティビジネスの導入
- 住民自治組織の存在意義や役割、活動等を広報紙のほか、ホームページやSNSを併用して発信

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	80%
取り組まなかった	1	20%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・町内会役員との会議を設定し、会費等の見直しを毎年行う。
- ・実施事業については実行委員会を設け、内容の検討を行っている。
- ・地区内の各種負担金の見直しを図り、適正な額の提示を行い、各町内会の負担軽減につなげた。
- ・毎月、事業案内、開催した事業の様子を掲載した「センターだより」を全世帯に配布し、住民の事業への参加意欲を促した。
- ・町内会連絡協議会、青少年育成協議会、生涯学習推進員等と連携し、諸事業の実施方法等について、協議を重ね改善を図っている。

地域課題③ 地区内外の団体との連携強化

★具体的取組の例

- 各種団体組織（広域コミュニティ組織、単位自治組織、社会福祉協議会等の団体）による意見交換会の開催、連携に向けた検討
- 人材育成のための研修機会の充実（単位自治組織若手を対象とした研修会、PTAと連携しての地域人材育成研修会、コミセン職員研修会等）
- 町内会長連絡協議会等地域全域で構成される組織と広域コミュニティ組織との連絡調整会議の開催

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・研修機会を設定し、防災意識の高揚を図っている。
- ・関係団体等との連携を強化しながらも、諸事業に女性や若者の声が反映できるよう、新たに団体枠を募集したりして協力を依頼している。

地域課題④ 福祉と防災で新たな役割を確立

★具体的取組の例

- 単位自治組織と広域コミュニティ組織、市による機能・役割分担の確立
- 単位自治組織と情報を共有する体制づくり
- 学校、保護者、単位自治組織、広域コミュニティ組織、地域団体との連携による「見守り隊」活動の実践
- 関係団体等との協働による防災訓練の実施
- 高齢者の生活ニーズを踏まえ、持続可能な課題解決の手段として、コミュニティビジネスの取組に向けた検討
- 中学生・高校生の防災意識の高揚（応急処置講習会、防災訓練への参画）
- 災害に即応し、自助共助が発揮できるまちづくりの推進
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	80%
取り組まなかった	1	20%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・災害に即応し、自助共助が発揮できるまちづくりの推進
- ・避難行動要支援者の個別避難計画の作成
- ・市の災害時地区担当職員と災害時における動向について、年度当初に打ち合わせをし、不測の事態に備えている。
- ・地区総合防災訓練に各町内会長から参加してもらいながら、各町内会の自主防災体制が機能するよう働きかけている。また、旧児童館を高齢者や子育て世代等の居場所として活用できるよう、青少年育成協議会役員等の協力を得ながら第一段階として外回り周辺の整備に取り組んだ。

地域課題⑤ 「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり

★具体的取組の例

- 子どもたちの郷土愛を育む地域教育活動の実践
- この地域でなければ経験できない伝統芸能、食生活、スポーツなどに、子どものころから触れ合う事業を実施
- 地域と学校の連携・協働によるコミュニティスクールの導入と地域学校協働活動の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	80%
取り組まなかった	1	20%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・小学生を対象とした事業を年6回、保護者や地域の各団体の協力を得て実施、多世代との交流も企画、実施
- ・自主運営の放課後こども教室を毎月開催し、地元の支援員の協力を頂きながら、郷土の偉人について学んだり、昔遊びやコマ作り、押し花などを行い、世代間交流を深めた。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・空き家、除雪は毎年課題に挙がっている。
- ・少子化の中、スポ少の種目の選択肢が広がっている為、地元で従来から応援に力を入れている剣道への入団者がいない。
- ・避難所対応ができる現体育館と同規模以上の交流施設を兼ね備えた施設建設が強く望まれる。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・長沼地区全体の防災組織の構築
- ・旧渡前児童館の再生・活用は、地区住民から出された要望として、地域ビジョンづくりのワークショップでも話題になり、園児・小学生の親世代からの声が多い。活用するための初期整備費用は高額で、当振興会予算では賄えないため、様々な助成等を活用し整備できればと考えている。

地域課題① 将来を見据えた持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ組織との連携による事業内容の見直し
- 将来を見据えた会費のあり方の検討と、共同作業の見直し
- 近隣する単位自治組織との交流と協力体制の構築
- 新しい生活様式に対応し、SNSやオンライン化の導入の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	20	38%
取り組まなかった	33	62%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・集落の現状を踏まえ持続可能な行事の在り方を精査・見直し・改善を行った（祭事の持ち方、講の休止、複数行事の同日開催等）。
- ・将来を見据えた集落会費の在り方の検討と共同作業の見直しを行った。
- ・貯蓄型集落会費とならないよう、事業支出に見合う年会費として減額を図った。
- ・単身高齢世帯の集落会費を減額した。
- ・高齢世帯の負担金（清掃活動不参加者が拠出する負担金）免除のきまりを見直した。
- ・防災訓練など、広域コミュニティ組織との連携による事業内容の見直しを行った。
- ・広域コミュニティのビジョン策定に参加した。
- ・役員間の連絡手段にLINEを使用し会議招集にかかる負担の軽減を図った。
- ・コロナ禍で減少した事業活動費を公民館修繕費に充当した。
- ・ゴミステーションの改修を実施した。
- ・転入してきた住民のコミュニティ参画を促すため、事業活動への積極的な参加を呼び掛けた。

地域課題② 多様な人材の活用と役員等の負担軽減

★具体的取組の例

- 役員負担軽減につながる効果的な組織体制の見直し
- 単位自治組織が抱える課題・将来像を共有する場づくり
- 女性や若者を登用し、幅広い年齢層が参加しやすい集落運営の仕組みづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	17	32%
取り組まなかった	36	68%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・小中学校の賛助会費集金を集落会計から一括支出しPTA評議員の負担軽減を図った。
- ・役員4役を2年順送りするよう改め、組織の硬直化防止・活性化を図った。
- ・若者の役員登用に務め、組織の若返りを進めている。
- ・住民全員が役員を経験できるよう自治会の編成方法を検討した。
- ・スムーズな役員改選の方法を検討した。

- ・役員ポストを減らし仕事も減らした。
- ・人材が少ないため、役員退任者も相談役として協力している。
- ・年間複数回行っている集落会費集金を年度一括払可として集金人の負担軽減を図った。

その他

- ・会社員等が多く特に区長・区長代理の負担が重い。任期の短縮を検討している。
- ・若年層の減少により一部役員任期を延長した。

地域課題③ 多世代が交流し、あいさつを交わし合える地域づくり

★具体的取組の例

- 地域の特性を活かした多世代参加・交流型事業の開催
- 若者が事業を通じて企画・運営の達成感や充実感を感じられる仕掛けづくり
- 笑顔であいさつを交わし気軽に話し合える雰囲気や場づくり
- 子どもが地域の大人とつながり、体験を通して地域の魅力を知ることによるふるさと大好きな子どもの育成

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	17	32%
取り組まなかった	36	68%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・毎月回覧版で集落内の話題や地域外の動きを周知し、集落自治への意見収集を行った。
- ・子供会による春と秋の資源回収、夏祭り神輿引きを通じ、地域住民の交流を図った。
- ・集落美化活動、花いっぱい運動など多世代であいさつを交わし合える場づくりに取り組んだ。
- ・花いっぱい運動により地域住民・観光客の心のうるおいづくりに寄与した。
- ・子供を中心にあいさつを励行、気軽に話し合える雰囲気づくりに努めた。
- ・子供会行事・祭事に集落役員も参加し交流を図った。
- ・広域コミュニティ主催行事や神社の催事に多くの住民が参加した。
- ・全年代が参加できるレクリエーション大会を企画した（コロナ禍で R4 は開催中止）。
- ・コロナ禍で計画した行事ができない中、清掃活動等の屋外行事を実施し住民交流の機会を設けた。
- ・公民館の改築を契機に交流が盛んになった。

その他

- ・小学校の統廃合後、地域との関わり方が変化し、また、子どもの数自体少ない。

地域課題④ お互いを見守り支え合う安全で安心な地域づくり

★具体的取組の例

- 自主防災組織の機能点検及び広域コミュニティ組織と連携した事業体制の構築
- 有事に備えた住民情報の把握と見守り・支え合い体制の仕組みづくり
- 他団体と連携した高齢者等交流・支援活動の実施
- 空き家情報の把握と市への情報提供

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	21	40%
取り組まなかった	32	60%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・ 集落内の防犯灯点検を実施。また、世帯名簿更新作業により単身者世帯、高齢者世帯の把握を行った。
- ・ 老朽化し危険な状態にあった神社鳥居を解体した。
- ・ 集落内道路の危険箇所の確認や公園遊具の点検、整備を行った。
- ・ 地域防災対応マニュアルを策定し、集落全戸に配布した。
- ・ 一人暮らし女性の対応担当者を選任し、安否確認等実施した。
- ・ 地域防災訓練において、集落全戸の安否確認を実施した。
- ・ 集落会費徴収時の声掛けや回覧板・広報配布時に高齢者宅等の見守り・支え合いを実施した。
- ・ 避難場所の確認をした。
- ・ 区長に集落内の情報が集まる仕組みを検討した。
- ・ 消防団員と連携し消火栓・消防資機材の取扱いを学ぶ訓練を行った。
- ・ 集落内の空き家の状況を把握し、市に情報提供して対策を検討した。
- ・ 日頃の近所付き合いや支え合いのなかで高齢者世帯の除雪を手伝っている。

その他

- ・ 防災アドバイザーを招き研修を実施したが参加が少なく、如何に意識高揚を図るかが課題である。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・ 行政機関等から依頼される河川の草刈りについて、危険な場所が多く中止にしてもらいたい。
- ・ 今野川の洪水等氾濫対策（川底の雑木除却を要望）
- ・ 近い将来の役員なり手不足
- ・ 公民館の保険に入るかどうかで話がまとまらない。
- ・ 集落役員・消防団員のなり手不足による役員の固定化
- ・ 役員廻りに関する規約内容の見直し
- ・ 高齢化、少子化によりコミュニティが縮小しており、組織運営や様々な活動が難しくなっている。
- ・ 少子高齢化、人口減少、独居世帯、高齢者のみ世帯の増加、観光宿泊客の減少、除排雪対応、村社氏子等減少による社の維持、文化伝統行事の継承、空き家の増加
- ・ 管理不全空き家に対して、集落で何が出来るか模索している。
- ・ 倒壊空き家からの飛散物の撤去管理

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・ 公民館広場にある遊具の撤去・整備
- ・ 集落設備（ゴミ集積所）の補修、公民館の建替え・改修の検討
- ・ 過去2年分の住民意見の集約化
- ・ コロナ禍で見合わせした事業の再開（夏祭り、花見、芋煮会等）
- ・ 地区防災計画の策定
- ・ 集落設備（消火ホース格納庫・ゴミ集積所）の更新整備

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・ コロナ禍で住民が腰を据えて話し合える機会が皆無となり、住民同士の繋がりが希薄化しつつある。これが当たり前の状態とならぬよう意識的に交流機会を回復させる必要がある。

地域課題① 身近な地域の居場所づくり

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ活動についての研修会や情報交換
- 広域コミュニティ活動の地域内外への発信
- 地域資源を活かしたコミュニティビジネスの取組に向けた検討
- 適正な受益者負担の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・百歳体操（毎週）、女性セミナー（全12回）、男の料理教室、小学生料理教室、スマホ教室を開催
- ・誰でも参加出来るイベントを通じ、世代を超えた交流の場を提供した。
- ・女性向けの各種教室、小学生の夏休み勉強塾、親子教室を開催した。
- ・外部団体と連携し月1回サロンを開催。老若男女問わず世代を超えた親睦と交流の場を提供した。
- ・年間通じた居場所づくり、交流機会を設けた。新規参加者を取り込むことができた。

地域課題② 単位自治組織と連携した事業体制と新たな人材育成

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ組織による単位自治組織への支援
- 地域の現状と目指すまちの姿を共有し、地区住民の声を反映した「地域ビジョン」の策定
- 地域活動に参加する契機の創出
- 地域コミュニティに関わる団体・組織との交流
- 新たなリーダー輩出につながる、サブリーダーからの人材育成と達成感を感じる仕掛けづくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・集落区長協力のもと、地域通貨導入検討事業の実証実験を実施した（敬老祝品として配布）。
- ・地区住民の声を反映した地域ビジョンの進捗状況を報告し、今後の進め方について話し合いの場を持った。
- ・地域ビジョン策定に向けた研修会を開催した。地区の現状と課題、目指すまちの姿を共有し、次年度計画の準備や仕掛けづくりができた。
- ・小規模ながら地区住民の親睦を図る事業を展開できた。単位自治組織との協力体制を再構築した。

地域課題③ 郷土愛を育む学びの場と地域の魅力を発信できる仕組みづくり

★具体的取組の例

- 子どもたちの郷土愛を育む社会教育活動の実践
- 小学校等と連携した協働活動の推進
- 若者に魅力ある子育てしやすい環境づくり
- 地域外から人材を呼び込み、地域力の維持・強化と地域の魅力の再発見と発信
- 新しい生活様式に対応し、SNSやオンライン化の導入を検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・小学生対象の蛍観察会、羽黒山朝山登山、杉並木観察会を実施した。3月には「住まいのまちなみコンクール」受賞記念講演会を開催した。
- ・地区の魅力をを知るためのウォーキングを実施した。
- ・広報紙の他、SNSを使い地区や情報、コミュニティ活動の状況を発信した。
- ・小学校や外部団体と連携し、農作業を通じた世代間交流事業を開催した。
- ・地域ビジョン策定の取組を通じ、地域の魅力、後世に残すべきものを整理・確認することができた。

地域課題④ 自主防災組織と連携した防災の体制づくり

★具体的取組の例

- 情報伝達、情報収集方法の構築
- 単位自治組織の自主防災会への働きかけや支援
- 地域の実情に即した避難訓練や防災研修等の実施

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	75%
取り組まなかった	1	25%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・集落自主防災会、自治振興会地域安全部員、消防団が参加して地区防災訓練を実施した。
- ・地域内5ブロックに分け、毎年順番に防災訓練や研修会を実施した（R4は庁舎と共催。規模縮小とし、集落自主防災会代表者ら参加により実施）。
- ・関係機関と連携し、防災意識の高揚と地域の実情に即した防災訓練や講演会を実施した。

その他

- ・広域コミュニティとしての防災組織体制整備が遅れており、次年度取り組む予定である。

地域課題⑤ 安心して暮らし続けられるコミュニティづくり

★具体的取組の例

- 高齢者や要支援者の見守り支援体制の構築
- 各種団体や組織と連携した防犯体制の取組

- 不良空き家化の予防啓発
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・鳥獣被害対策研修会 3 回、実地研修 2 回を開催した。
- ・資源回収において、自己搬出が難しい高齢者を対象に訪問回収を実施した。
- ・警察署指導のもと、コロナ禍で起きている詐欺被害の実例と予防策の研修会を開催した。
- ・関係機関と連携し、通学路の危険箇所点検や防犯体制強化の取り組みを実施した。
- ・地域ビジョン策定の取り組みを通じ、地元環境の良さを再認識し、環境維持・改善へ取り組む機運が高まった。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・雪害、鳥獣被害
- ・単身高齢者の増加に伴う隣近所同士での見回りと支援の必要性。空き家の増加への懸念
- ・少子高齢化に伴う子育て支援
- ・コロナ禍で希薄化した住民同士の関係性回復に向けた親睦・交流・連携を深める事業づくり
- ・広域コミュニティ活動に対する理解と賛同、参画を促す仕組みづくり

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・学校統廃合で再編された学区運動会に代わる、地元（旧学校区）住民を対象とした体育イベント
- ・廃校施設（図書館）の利活用。地域通貨の導入
- ・人と人の繋がりを回復させるため、多世代が交流出来るイベントを開催したい。
- ・コロナ禍で中止した運動会・敬老会・文化祭等イベントを再開し、地域住民の一体感を取り戻したい。
- ・地域の現状と目指すまちの姿を共有し、住民の声を反映した地域ビジョン策定を目指す。
- ・広域コミュニティを単位とした防災組織の編成

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・人のつながりが減っている現状を踏まえ、地域コミュニティについて問題意識を持って取り組んでいかなければならないと思われる。多世代の地区住民が気軽に集まれる機会を作るため、その拠点となる地域活動センターの再整備について検討していただきたい。
- ・地域ビジョンのアンケートから「地区に愛着があり暮らしやすい」との結果を得た。その思いが維持されていくために、自治組織としてどのような取り組みをしたらよいか、過去の取り組み見直しを含め、コミュニティ組織づくりを進めたい。

地域課題① 広域コミュニティ組織の検討

★具体的取組の例

- 近隣する単位自治組織との情報交換や交流と協力体制の検討
- 広域コミュニティ組織の活動を共有する機会と場づくり
- 単位自治組織の将来像の共有と区長会、自治公民館連絡協議会等との意見交換会の実施

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	36%
取り組まなかった	7	64%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・地区の総会において、広域コミュニティ組織設置に向けての区長会提言について説明した。
- ・自治会と公民館の組織一体化の取り組みの中で、福祉、防災活動が重視される状況について、自治会運営委員会で共有する場を作った。
- ・『単位組織の活動低迷』が懸念されているという事だが、当地区では地区公民館を主体にして、年2回ほど住民の交流を図っている。

地域課題② 住民自治組織等の理解促進と事業の見直し

★具体的取組の例

- 近隣する単位自治組織との情報交換や交流と協力体制の検討
- 一体感を醸成するための子どもから高齢者まで参加できる事業の実践
- 市民まちづくり活動促進事業補助金等、地域コミュニティの課題解決のための事業の活用
- 組織や活動等理解してもらえよう総会資料の工夫や広報の検討
- 事業活動の見直しとともに適正な自治会費の検証
- 若者や女性の参画に向けた住民ニーズの把握
- SNSの活用などによる役員負担の減

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	45%
取り組まなかった	6	55%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・コミュニティ助成事業により、エアコン他コミュニティ活動備品を整備した。また、『地区だより』を月1回発行し、情報の共有に努めた。
- ・自治会の会報『茶の間』を年4回発行、自治会活動の理解を求めるよう努力している。
- ・少子高齢化や就労形態の多様化の中で、持続可能な組織作りを目指し、住民自治組織の役割、必要性を明確にし、理解を深め、組織の維持、活性化に向け事業の見直し検討に取り組んだ。令和5年度から自治公民館事業は、自治会事業に継承し、組織一体化により、役員の数減少と報酬を見直し、自治会費の減額にもつなげた。
- ・総会協議事項の進捗状況や地域情報（困り事や危険箇所等）をお知らせ版として発行した。
- ・自治公民館組織の一部であった『若妻会』が会員不足（2名）になったことから、協議を行った。結果令和4年度で解散となった。

地域課題③ 次代を担う人材育成と後継者対策

★具体的取組の例

- 民俗芸能や伝統文化への理解促進と継承活動の支援
- 子どもの頃から地域固有の歴史や文化、伝統、産業などへの理解を促す機会づくり
- 地域の特徴である果樹栽培を始めとした農業の魅力を伝え、若者が就労先の一つとして選択できるような支援
- 結婚を後押しする雰囲気づくりと子育てしやすい環境づくり
- つるおか婚シエルジュの周知と連携
- 若者や女性を登用し、SNSの活用など、得意分野を活かした役割分担により、自分が必要とされている喜びや達成感を感じる仕掛けづくり
- 若者の参画のもと、農業生産者等との連携による環境美化活動等の実施
- 地域と学校の連携・協働によるコミュニティスクールの導入と地域学校協働活動の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	45%
取り組まなかった	6	55%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・民俗芸能の継承活動支援
- ・地区の地蔵様祭りにあわせ、夏祭りを行い、地域の文化への理解を促す機会とした。
- ・自治会組織の人材育成、特に役員のなり手を確保するため、役員の候補者育成も兼ね4つの専門部を設け、それぞれの部長、副部長による事務局体制を作った。
- ・各種会議、集会に積極的に参加をしてもらっている。又、民族芸能も途切れていたが、今後復活のために、今動き出している。

地域課題④ 安全・安心な地域の構築

★具体的取組の例

- 防災意識の高揚を図るための定期的な防災訓練や防災座談会の開催
- 支援が必要な人と支援ができる人の把握と見守り・支え合い体制の仕組みづくり
- 緊急時や災害時に備えた住民情報収集の必要性の確認及び取り扱い方法、活用方法の確立
- 自主防災組織の機能の点検と体制整備
- 消防団活動協力員の加入促進
- 見守り隊の機能の点検と体制整備、青色パトロール隊活動の支援
- 高齢者世帯の増加を見込み、高齢者のニーズ（除雪・買い物・通院等）への支援体制づくり
- 毎月1日に交通安全・防犯の小旗を掲揚し、地域ぐるみで交通事故防止・犯罪防止に努める
- 空き家の実態把握、所有者に対する適正管理の指導
- 空き家等に関する転出時の単位自治組織での取り決めの検討
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	11	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・自主防災組織の体制整備。各戸で毎月1日に交通安全、防犯の小旗掲揚を行い、地域ぐるみで交通事故防止・犯罪防止に努めた。また、自治公民館周辺にも掲揚した。
- ・要支援者と支援者の把握、自主防災組織の機能の点検、空き家の実態把握と適正管理
- ・災害時の地区民の安全を確認するための世帯毎の安否確認シートを作成し、毎年シートのメンテナンスを行うとともに、防災の日にあわせ安否確認訓練を行った。

- ・地区の意見や要望を市政に反映していただくことを目的に庁舎と市政座談会を開催した。
- ・自主防災会議を2度開催し、防災訓練の進め方の検討を行ったが、コロナの状況で訓練は中止となった。
- ・要援護者の見直しを行い、要支援者の把握と支援できる人との支え合い体制を確認した。
- ・防犯灯の増設を行い、危険個所の減少を図った。
- ・山添駐在所、西小学校と見守り隊とで、子供達の安全を守るための話し合いを行った。
- ・自主防災計画（令和4年3月策定）に基づき、近年多発する各種災害に対する意識の向上と自主防災会の役割を確認した。防犯パトロール隊、見守り隊の通年活動を支援した。
- ・防災訓練実施
- ・自動車に乗って児童の通学を見守る青色パトロール隊の活動を地区でも支援
- ・空き家などの危険建物を、市の補助金を活用し、取り壊した。
- ・防災組織図の見直しを検討した。

その他

- ・自主防災組織があるものの、その活動、内容について再度検討、精査し、地区全体で取り組む体制にしていく。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・若年層が薄く、高齢者率が高い（45%程度）。又、20～40代の未婚率が高く、全世帯の40%にもなる。高齢者世帯も約18%と多く、今後更なる人口減少と活動の衰退が見込まれ、地区事業等、役員構成のあり方について検討が必要。
- ・少子化と高齢化、空き家の存在
- ・地域活動の担い手であった婦人会、若妻会、老人クラブ、青年団等の地縁的団体が衰退している。これらの団体には従前は全世帯が加入していたが、その網羅性が崩れ、担ってきた機能をどう維持していくかが課題となっている。
- ・地区役員の受け手がない。
- ・コロナの影響か自分本位の考えが特に目立つようになった。
- ・地区内の団体組織、後継者が育たない。
- ・女性の役員登用が難しい。
- ・地区行事等への参加者不足

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・写真集を制作し、集落の様子を写した写真を元に歴史を伝えるとともに、地域に愛着や関心を持ってもらう。
- ・櫛引地域防災計画と連携した『地区防災計画』の作成
- ・コロナ禍で休んでしまった各事業を再開したいが、世の中が変わってしまっていて以前のように人が集まるか心配
- ・当地区では『ふるさとむら宝谷』を公民館的利用という事で使用しているが、建物自体が25年も経過し、老朽化が進んでいる。そのため、『ふるさとむら宝谷』、地区公民館で話し合いを持ち、屋根の塗装、外壁の修理に取り組みたい。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・ 広域コミュニティの組織化に向けて、市からはもっと積極的な説明や支援をお願いしたい。
- ・ 令和5年度は地区民への広域コミュニティについての説明会を計画する。
- ・ 新規の入居が多いことから、隣組のつながりが希薄に感じられる。
- ・ 昔ながらの助け合いの心が薄く感じられる。
- ・ 以前と比較して、地区役員や地区運営の担い手に苦慮するようになったと感じている（自分がしなくても誰かがやってくれるという気持ちが強くなっているように感じられる）。
- ・ 地区に新しく居住する方の状況把握が難しいことと、自治会入会や自治会費の納入などで苦慮する場面が出てきている。住民登録の手続きの際、自治会入会について、説明を行ってほしい。

地域課題① 将来を見据えた持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 住民組織の意識改革を行いながら、女性や若者が発言・活躍できる場を作る
- 広域コミュニティ組織と連携・協力しながら、自治会組織役員の負担軽減を実現する
- 単位自治会を超えた複数自治会での活動を模索する
- SNSなどを活用し、新しい情報発信のあり方を検討していく

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	12	46%
取り組まなかった	14	54%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・隣組の再編を行い、組ごとの人数差を縮小し、組数を少なくすることで、役員選出の負担を減らした。
- ・人口減少に伴う隣組の再編を検討中である。
- ・自治会協議役員について、若者や女性の参加を求めたが、いい返事はもらえなかった。今後も諦めずに進めていきたい。
- ・地域の消防団は2班体制になっているが、各班とも過疎化・少子化等により新規団員の確保が困難なため、令和5年度を準備期間、令和6年度から1班体制として統合することとした。
- ・集落の事業について、勤めている人の負担にならないように事業をまとめて実施するようにした。
- ・地域のビジョンづくりに向けた自治会ワークショップを行い、地域内の課題とこれからについて市やコミュニティ組織を交えた話し合いを行った。
- ・毎年行っている子供から高齢者までが集う交流会について、コロナ禍のため時短開催等、規模を縮小して行うことで継続開催を維持し、幅広い年代の交流を図った。
- ・子供会育成会事業である資源回収について、少子化により育成会のみでの実施が困難となっていたことから、自治会役員が協力することで活動を維持することができた。今後も継続していきたい。
- ・地元林道の草刈りを他の自治会と共同で行った。
- ・除雪パートナーズ事業、玄関前除雪事業に取り組み、高齢者世帯の克雪対策を実施した。
- ・自治会行事や集会の案内をLINEで行い、回覧等を極力減らした。ただし、スマートフォンを持たない高齢者への対応が課題である。
- ・自治会長が「自治会だより」を毎月発行することで、住民同士の情報共有ができた。

地域課題② 住民による魅力的な事業づくり

★具体的取組の例

- 幅広い年代が参加しやすい事業の開催
- 単位自治会を超えた複数自治会での参加しやすい事業を開催する
- 生涯学習活動において、広域コミュニティ組織・地区公民館連絡協議会と連携した事業、単位自治会でできる事業のすみ分けを考えていく

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	12	46%
取り組まなかった	14	54%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・全ての集落を対象に、子供から高齢者まで参加できるグラウンドゴルフ交流会を実施した。
- ・地区運動会は中止となったが、地区公民館連絡協議会と連携し、グラウンドゴルフ（老人クラブ）や地域の駅伝、バレーボール大会などのスポーツイベントに参加した。
- ・体育部長を中心に体育部推進員が協力し、地域運動会の代替え事業としてのレクリエーション交流事業の企画立案を行った。
- ・毎週木曜日に「上本郷サロン」として、100歳体操を行っている。
- ・地域内に湯ノ沢観光協会、アルカディア委員会、地域保全会、チョボラの会、雪下ろし協力隊など多くの組織があり、子供や高齢者を巻き込んだ様々な活動をしている。
- ・地元の美味しい水を確保するための保全清掃を実施した。
- ・子供が少なくなったため、子供会育成会の事業である春と秋の資源回収を自治会と合同で実施した。

地域課題③ 安全安心な地域づくりのための組織づくり

★具体的取組の例

- 防災拠点施設となる広域コミュニティ組織との連携の強化
- 社会福祉協議会等、他団体との協力による見守り活動や情報共有の継続と充実
- 地域の消防団や行政と連携し、有事の際には地域に住む人たちが協力しあえる仕組みづくり
- 空き家の所有者の把握と、適正管理の指導や助言

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	19	73%
取り組まなかった	7	25%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・自主防災組織について、大雨による災害に対応できるような避難誘導を考慮した班体制として整理し、来年度から実施していくこととした。
- ・市総合防災訓練において、自治会として地区住民の避難誘導訓練や班員の安否確認を行い、自主防災意識の向上を図った。
- ・倒壊している空き家について、危険防止のための応急措置として、市から網を提供していただき、自治会で網掛けを行うこととした。

地域課題④ 単位自治組織の財産管理や環境整備事業の見直し

★具体的取組の例

- 将来を見据えた会費のあり方の検討
- 隣接する自治会との共同作業の検討
- 土地や建物の財産管理や共同作業の見直し

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	18	69%
取り組まなかった	8	31%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・自治会組織の「決め事」の見直しを継続して行っていく。
- ・集落内の高齢化や人口減少により、これまで自治会が委託業務として請け負ってきた草刈りや雪下ろしを請けないこととし、草刈り等は集落内の共同作業のみとして地域の負担を減らした。
- ・集落の体制等を考慮して、公民館の雪囲い方法について見直しを行い、落雪の少ない箇所については一部はめ込み式に変更することで、作業の簡素化による負担軽減を図った。また、宮祭りの際に設置するのぼり旗についても簡素化することとし、来年度からは立てないこととした。
- ・コロナ禍で事業ができないため自治会費等を減額とした。
- ・公民館の老朽化した箇所を修繕するための予算を整備した。
- ・公民館の将来的な改修や修繕を計画的に行うための施設運営積立てを行った。
- ・公民館の屋根葺き替え修理を実施した（市補助基準対象外）。戸数が少ないため、個々の出資額が多く苦労している。

地域課題⑤ 希薄化した連帯感の再構築

★具体的取組の例

- 単位自治組織と広域コミュニティ組織が連携した活動の実施
- 単位自治組織を広域コミュニティ組織が支援する仕組みづくり
- 単位自治組織でできることはできるだけ単位自治組織ですするという自覚を持つ場づくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	13	50%
取り組まなかった	13	50%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・地域ビジョンづくりに向けた自治会ワークショップの開催によって、普段の寄り合いの場とは違った多くの参加による意見交換を行うことができた。
- ・年1回秋に開催しているグラウンドゴルフ大会は、10年以上継続して行っており、地域内の交流を深めている。
- ・土着信仰として継承されている年2回の村念仏（まわり数珠）について、各戸の持回りとして実施していたが、高齢化により見直しを行い、新年度からは自治会行事として実施することとした。
- ・コロナ禍で住民参加の行事が制限される中、正月に全世帯を対象に折詰料理とお酒の配布を行った。
- ・近隣の3自治会で、抱える問題や集落のあり方・考え方、農業後継者等について話し合った。
- ・新型コロナ対策のため実施できなかった地域運動会の代替え事業としてレクリエーション交流会を実施し、世代間の交流を図った。
- ・自治会の作業後に意見交換会を実施した。
- ・自治会全体ではないが、60～70代の女性達がひと月に2～3回程度、自主的に声を掛け合って健康体操に取り組んでいる。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・高齢化に伴い、地域活動に参加しづらくなっている。体調や体力的に難しい人が活動に参加できない場合の対応をどうしていくかが課題である。
- ・高齢化が進んでいるため、自治会行事や集落内草刈り、公民館雪囲い等の共同作業の実施に支障をきたしている。
- ・集落内草刈り等の共同作業について、高齢化により10年ほどで実施できなくなるのではという不安がある。また、高齢者世帯の除雪問題があるが、自治会としての対策はまだ行っていない。将来的には取り組みが必要なものもあるが、買い物などまだ何とかできている。
- ・人口減少、高齢化による事業の見直しが必要。役員を2つ以上兼ねている人が多い。
- ・人口減少、高齢化により世代間交流や自治会運営のための人材確保が難しくなっている。役員のなり手不足が今後の課題。子供もいないため将来の役員になる人もいない。なり手不足により自治会の存続が心配である。
- ・人口減少、高齢化、荒れる畑。どのようにしたら良いものか思案中である。
- ・40代、50代が少ない自治会のため、役員の継続性が問題である。70歳以上の方の2度目、3度目の役員就任の可能性があり、また、地域が広いので、車を持たない一人暮らし高齢者の隣組長は困難である。
- ・高齢化が進み、防災等の住民同士の助け合いが困難になってきている。
- ・この地区を離れ、移住する人が多くなった。
- ・自治会行事への積極的な参加意識が希薄化しており、自治会への無関心につながっている。
- ・一人暮らし世帯の家屋や空き家が大分傷んでいるので対応が必要である。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・空き家が多く、問題があるたびに所有者に連絡対応をしているが、連絡先等不明なものについては市に相談しながら対応している。
- ・デジタル化の推進に取り組んでいければと思っている。
- ・地域に重要な生活用水路があるが、50年以上の年数が経過しているため、修繕等の整備について計画的に進めることとした。自治会役員は年度での交代が多いため、実行委員会を立ち上げることにした。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・今後考えられる限界集落への自治体による対応として、どのようなことを計画しているのか知りたい。
- ・現在自治会内の小学生は2人のみで子供会育成会の活動が困難な状況にある。将来的にも子供が増えることは期待できず、「明るい未来」など到底来ないように思えて非常に心配である。
- ・新型コロナ感染症対策のため、計画した事業が実施できず、連帯感の構築が難しい。
- ・役員も高齢であることから、役員の仕事を増やさないで欲しい。
- ・自治会の方向性として、東岩本地区全体として考えていく時期にきているのではと感じている。

地域課題① 住民理解の促進と単位自治組織への支援

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ組織の活動意義と活動内容等を広報紙のほか、ホームページやSNSを併用して発信
- 単位自治組織で実施が困難となっている活動・研修への協力と支援
- 子どもの頃から地域固有の自然や歴史、文化、伝統、産業などへの理解を促すような機会づくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・東北公益文科大学、株式会社プロトソリューションと連携し、朝日地域の情報を発信する特設サイト「朝日共創プロジェクト」を運営し、地域の情報発信を行った。
- ・敬老会や運動会について、昼食前に終了し、テイクアウトとすることで、自治会の人的協力が不要になり、自治会経費の削減につながった。また、実行委員の労力負担も減り、午前中開催であることや昼食持参が不要となったことで参加者も気軽に参加できるようになった。
- ・3 集落における集落協定中山間事業として開催するグラウンドゴルフ大会への事務協力をを行い、事業の円滑運営を支援した。
- ・事業への参加呼びかけについて、音声告知放送をきめ細やかに活用して行った。
- ・Facebook を活用し、事業の周知・報告を行った。

地域課題② 人材の確保に向けた検討

★具体的取組の例

- 人と人とのつながりができるような事業や研修会の実施
- 地元講師の発掘と、講師を活かした事業の実施
- 若い世代の声を地域に活かすため、性別や年代を超えた語り合える場を作る
- 生涯学習推進員を巻き込み、単位自治組織と広域コミュニティ組織の連携を強める事業を実施する
- 意欲ある生涯学習推進員の掘り起こしを進め、研修の充実を図る

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・地域部を事務局とし、東北公益文科大学地域共創コーディネーターと連携しながら若者語らいの場ありのまま未来プロジェクト「WaGeSho」の企画運営を行った。
- ・幅広い年齢層から参加いただき、地域への思いを語り合い、共有することができた「地域語り合い」では、職員や地区公民館連絡協議会役員がテーブルファシリテーターを経験することで、地域の人材育成を図った。
- ・生涯学習推進員の選出を従来自治会輪番制としていたが、やる気のある若手にお願いすることとした。
- ・地域の魅力を発信する「交流の里おおあみ」の事業として、六十里越街道トレッキング（5回）、「月山筍収穫体験」等を企画し、地域の人材育成と地域外交流を促進した。

地域課題③ 希薄化した連帯感の再構築

★具体的取組の例

- 朝日地域自治振興会連絡協議会（広域コミュニティ組織の連合組織）が主体となって事業を実施できるような仕組みづくり
- 子どもから高齢者まで世代を超えて集える場づくり
- 地域が学校に関わるコミュニティスクールへの協力・支援
- 地域と学校の連携・協働による地域学校協働活動の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・5 地区で開催した「地域語り合い」では、中学生から高齢者まで幅広い年齢層の方に参加いただき、地域への思いを語り合い、共有することができた。
- ・朝日中学校と連携した「週末塾」を開催することで、高校受験に向けた学びの機会の充実を図った。
- ・地域ビジョン策定に向けて、自治会ごとのワークショップ（2 集落）や策定委員会（2 回）を開催した。人口について、地域の近未来を数値化することにより、我が事として受け止めることができたように思う。その場で意見を出し合うだけでなく、事前に宿題を課し、地域課題シート等に記入してもらうことで、積極的な意見交換の場をつくることができた。また、各自治会からの策定委員（2 名以上）には、女性を必ず選出してもらうようにした。
- ・地元の育成会と連携した地域の伝統芸能「大綱子ども大黒舞」を継承する活動の一環として、「あさひ産業文化まつり」でステージ発表を行った。

地域課題④ 安全安心な地域づくりのための組織づくり

★具体的取組の例

- 単位自治組織と情報を共有する仕組みづくり
- 自主防災会と連携を強化し、災害の避難訓練や研修会の実施
- 空き家の実態把握と適正管理の指導や助言
- 社会福祉協議会等他団体との協力による高齢者や支援が必要な人に対する見守り活動等の支援
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	3	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・市総合防災訓練に向けた練習を兼ねて、地域と連携しながら避難所開設訓練を行った。
- ・慶応義塾大学大学院生の研究事業と連携し、初心者向けに全 8 回のスマホ教室を開催した。
- ・社会福祉協議会の助成制度を活用し、おだがいさま除雪支援活動を実施し、8 名の支援者により、10 世帯の玄関前除雪を行った。（朝日中央）
- ・市補助金を活用し、地域で支え合う玄関前除雪支援事業を実施し、自力除雪が困難な高齢者世帯の玄関前除雪を行うことで、安心して過ごせる地域づくりを推進した。（朝日南部・東部）

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・若い世代の活動が停滞しており、女性が地域で活躍できる居場所づくりが必要である。
- ・地域の伝統文化の継承が、人材確保ができない等により難しくなっている。
- ・運転免許返納後の移手段について、公共交通路線のバス停まで遠い地域に地域内交通を導入するための支援ができないか。
- ・人材不足により、自治会の役員業務について、自治振興会でサポートするような仕組みを必要とする地域がある。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・「地域語り合い」の実施による人材育成
- ・地域の情報を発信する特設サイト「朝日共創プロジェクト」を有効活用した地域情報の提供
- ・除雪ボランティア事業について、外部のマンパワーに頼るだけでなく、地域内でのボランティア意識を覚醒させ、地域内でのボランティアの仕組が構築できないか。
- ・世帯分離が多く、独居高齢者、日中独居高齢者世帯が増しているため、緩やかな見守りのネットワークの構築が急務と思われる。
- ・若い世代から入ってもらい、企画運営できるような事業を組めないか模索していきたい。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・豪雪地帯だからこそその予算を考えていただきたい。除雪ボランティアを有償にする仕組みとした場合でも、補助金があると仕組みを作りやすい。

地域課題① 健全な財政運営に向けた検討や、組織の見直しによる役員等の負担軽減

★具体的取組の例

- 住民合意に基づく会費収入に見合った事業運営の見直し
- 公民館類似施設運営・活動費補助金の有効活用

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	18	67%
取り組まなかった	9	33%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・自治会費改定初年度予算編成に伴う支出予算の見直し
- ・住民負担軽減のため、少しだが自治会費の削減と自治会事業に見合った役員体制にした。
- ・自治会組織検討委員会において、自治会執行委員の選出方法を決め、今後役員の定数、各部の再編を検討していく（継続中）。
- ・各事業や行事内容の見直しと各部の再編成を検討している。
- ・住民負担軽減の為、自治会費を78%減額。各報酬も2割カットを実施。現状に適合した組織改革を行い、役員を1名減らした。但し、各行事の予算は減らさないで現状維持
- ・健全な財政運営を図るため、補助的交付金の交付手順の改善に努めた。金額の妥当性の検討を図った。
- ・平成31年（2019）2月から自治会役員で今後の集落費（自治会費）のあり方について検討し、そのたたき台を自治会員に提案（話し合い）したが、コロナ禍によりまだ実施していない。今年こそ行っていく。
- ・仕事をしながら自治会長が務められる様に業務を分担協力した。

地域課題② 将来を見据えた単位自治組織の検討

★具体的取組の例

- SNSの活用など新しい生活様式の導入
- 若者や女性等、多様な人材の活躍の場づくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	13	48%
取り組まなかった	14	52%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・役員間の会議連絡、議事録、災害箇所等の画像の共有化をLINEやメールで行うことによって、用紙の削減や負担軽減を図った。
- ・役員や部会毎でのLINEのやり取りで会議や諸連絡と会長専用携帯電話を取り入れ、住民の声を積極的に受け入れた。
- ・役員同士LINEでやり取りができるようになり、会議の日程調整、連絡などがスムーズにできるようになった。
- ・自治会行事や各種団体に若者を取り込み参加を呼びかけているが、なかなか進まない。

- ・各部署の合併等（兼務可能なもの）で部の数を減らし、スマートな体制に改革した。
- ・各部の事業内容の変更見直し
- ・世帯数の減少、人口減に見合った事業についての検討を始めている。
- ・もはやこの自治会内だけで活動は出来ない。他地域に住む方の力を借りて活動をしていくしかなく、公民館主事を他集落から迎えた。
- ・老朽化した有線放送設備に替えて無線放送を整備した。

具体的取組とその効果など

- ・高齢化により将来的に自治会を維持していくことができるのか不安はあるものの、具体的な取組を行うことはできなかった。

地域課題③ 安全で安心して暮らせる防犯・防災対策の推進

★具体的取組の例

- 住民が災害対策意識を強く持つように、定期的な避難訓練と有事に備えた話し合いの機会や講習会の開催
- 自主防災組織の機能点検

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	22	81%
取り組まなかった	5	19%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・初期消火訓練の実施
- ・災害時避難行動要支援者支援制度への着手（研修会、各部署の説明会）。
- ・消防団員の減少により隣の自治会と連携
- ・個別避難計画作成の説明会を開催し、自治会会員の世帯名簿作成を行った。
- ・寺の住職及び護持会役員の了解を得て2次避難所とし、災害備品の整備をした。
- ・自主防災組織の機能や役割について協議を行い、災害備蓄品の補充を行った。
- ・津波避難訓練への参加には協力的で、意識の高さを感じる。
- ・コロナ禍になってから避難訓練を行っていなかったが、令和4年度は消火栓訓練を実施した。
- ・住民が集まる際、敬老会等で防犯・防災への注意喚起を行った。
- ・市の防災アドバイザーによる「防災サポート出前講座」を活用し研修会を実施した。
- ・コロナ禍で2年間中止していた住民を対象とした避難訓練を実施した。また、防災計画書を作成した。
- ・訓練のタイムを計測し、昨年と比較。住民の防災意識の高揚に努める。
- ・第2次避難場所の備品の点検・確認を役員で実施した。
- ・自主防災組織の機能点検
- ・毎年、6月18日の山形沖地震を忘れないため、有線放送や消防団のパトロールで意識確認し合っている。
- ・自主防災組織の作成、安否確認訓練
- ・自主防災会による空き家などの予防査察・豪雨による避難訓練・高齢者等の避難確認訓練

- ・小学生による火の用心活動
- ・コロナ過で防災訓練は実施出来なかったが、地元駐在員や消防団との連携は図っている。
- ・自治総合センターのコミュニティ助成事業により、老朽化した消火栓ホースと格納箱の更新を行った。

地域課題④ 次代を担う若者や子どもたちを取り巻く環境づくり

★具体的取組の例

- 世代間交流などによる伝統行事や伝統文化の継承への動機づけと支援
- 地域理解を深めるための学習支援

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	12	44%
取り組まなかった	15	56%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・公民館事業の実施（環境美化活動、ラジオ体操、花火大会等）
- ・地域の清掃作業を子供達と一緒にいき、地域の環境美化活動に取り組んだ。
- ・駅前花壇の花植えと水やりを、小中学生と保護者、自治会青少年部員が毎年継続して行っている。コロナで行っていなかった海のレクリエーションも復活した。
- ・地域の伝統文化を知り、理解を深めてもらうため子供達と「臼を使った餅つき」と「ナシ団子作り」を実施した。
- ・コロナ禍でここ2年間、祭典の獅子舞・ワッパ舞奉納が中止となったが、今回は感染対策を行い実施した。模代伝統芸能の継承を若い世代と共有できた。
- ・放課後子ども教室スタッフ、みちくさ会スタッフとして地域住民が参加しており、子供を地域で育てるという雰囲気が出来ている。
- ・コロナの影響もあったが子供夏祭りを実施できた。
- ・コロナ禍においても、盆踊り等での夏祭りや運動会の代わりにレク大会を企画したり、工夫しながらの開催を心がけた。
- ・小・中学生を中心としたクリーン作戦
- ・古典芸能の稽古を通して世代間交流を図った。
- ・若者を中心に獅子舞の継承を図った。

地域課題⑤ 高齢者等福祉の視点に立ったコミュニティづくり

★具体的取組の例

- 高齢者が持つ知識や経験を活かした地域づくりの推進
- 日常生活での見守り・支え合い体制の仕組みづくりと強化

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	19	70%
取り組まなかった	8	30%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・老人クラブのおたのしみ会を新たに始め、毎月1回開催し会員の親睦を図った。
- ・独自にミニデイサービスを実施して体操などを行った後、お茶飲み話で交流した。
- ・グラウンドゴルフの練習をし、大会に参加している。
- ・自治会行事での住民の集まりの時の世間話
- ・敬老会で100才になった方をお祝いした。
- ・「災害時避難行動要支援者」の支援制度の内容確認
- ・浜中おたっしゃクラブから、コロナ禍で活動は減少したが、国道7号の花壇への花植えや農村公園の草刈り等を手伝っていただいた。
- ・老人クラブを中心に集落の4回の奉仕作業、グラウンドゴルフ大会、お楽しみ会旅行などにより、コロナ禍においてもコミュニケーションをとることができた。
- ・第4地区全体で高齢者に対して月1回あたたか弁当を届けている。民生委員・あたたか弁当スタッフががんばっている。鼠ヶ関公民館調理室で弁当を作っている。
- ・日常生活での支え合い体制の話し合い
- ・高齢者を対象とした講話と健康作りを行った。
- ・高齢者世帯・独居老人を対象に雪降ろし協力隊を結成し、協力体制をつくった。また、定期的に健康教室を開催し介護予防・健康づくりを図った。
- ・単身の高齢者世帯のうち、特に高齢の世帯について自治会作業や総会への出席等を免除することとした。
- ・山戸支え合い準備会への参加を促した。準備会への支援を検討している。
- ・コロナの為通常の敬老会が出来なかったため、野外で敬老いも煮会を開催した。

その他

- ・日常の福祉や高齢者の福祉は大きな課題である。隣組のきずなや見守り等を確立して、隣近所が仲良く暮らしていけるコミュニティづくりを目指したい。

地域課題⑥ 広域コミュニティ組織の検討

★具体的取組の例

○地区自治会の今後のあり方の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	15%
取り組まなかった	22	81%
無回答	1	4%

具体的取組とその効果など

- ・人口減少による地区交流事業の在り方対応について検討
- ・今まで学区で区切られた地域での交流を重ねてきたが、摩耶山・小国川流域の親交・交流を深めるために親睦会を開催。大盛況だった。

その他

- ・将来を見据え中長期の地域ビジョンの作成が重要と思われる。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・大型旅館等廃屋が危険
- ・医療施設閉院に伴う生活不安
- ・少子高齢、空き家の増加
- ・消防団員の減少により、地域防災に不安を感じる。今後は自主防災組織を機能させ、可能な限り消防団に代わる体制を維持していくこととなるが、地域から部班が無くなると小型動力ポンプ付積載車も市に返納する必要があるとのことで、無償譲渡等も含めて検討していただきたい。
- ・自治会に課せられる業務を役員だけが負わされて荷が重くなっている。
- ・住民の高齢化による自治会組織の維持（若者不足）
- ・米作農家の高齢化により、「槇代の農業を考えよう」ということであつみ農地保全組合を呼んで研修会を行う。もう少し今の体制で行って、いずれ温海地区全体運営を考えた法人組織の中に入れてはベターでないか。いずれにしても耕作放棄は避けたい。
- ・生産森林組合の地縁団体移行について検討課題。行政は地縁団体移行を推進しているが、森林に対する意識が希薄になり、今迄温海地域は山・森があつて集落のコミュニケーションが維持されて来たが、益々離れて行く。考えが逆行している。
- ・テレビ共同受信設備の劣化。新システムにするには膨大なお金がかかる。今後住民との話し合い等により、対応を考えていかなければならない。
- ・有線放送設備の劣化により、毎年多額の費用がかかっている。対応策の検討
- ・自治会内での役員や他団体の担い手が選出されることが大変困難になっている。自分たちの地域は自分たちで守っていくという心がまえがほしいし、必要であり、集落内で議論していきたい。
- ・住民の高齢化により自治会行事（地域の環境整備等）だけでなく、地域の祭典等の行事の運営も困難になってきている。災害発生時の対応に不安がある。
- ・公共施設や商業施設等の閉鎖撤退が進む中、地域の活気が失われつつある。
- ・人口減少・高齢化による収入減と事業参加の減少
- ・自治会所有の山林の名義変更について

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・令和5年度から、温海第2地区の事業やイベント等の減少、婦人会の独自活動が中止となるので、組織の見直しを検討しており、次期役員改選までに見直しを行う予定をしている。
- ・防災対策として消火栓や消火器の取り扱いなど何回も練習しても良いのではないかと、何年前には実習しているが忘れていたので。
- ・集落内の環境美化
- ・自治会管理のカラ竹林があり、年に1回は間伐や肥料散布などを行っているが、せっかくの資源であるのもっと活用できる方法を模索している。しかし一番の問題は人の確保である。
- ・一つ一つ行事を行う事が困難になってきているので「秋まつり」として、芋煮会や子供達のレクリエーションや、敬老会などを一括に行う行事を計画している。
- ・季節のいい時期に年3回位の輪投げ
- ・地域資源を活用した伝統料理の伝承
- ・新しい事業等でなく、今はコロナで中止・延期になった事業・行事等がそのまま衰退しないように、まずは今までやってきた事の復帰に取り組みたい。無気力感が人口減少に繋がらないように。
- ・4年ぶりに夏祭りの実施。新型コロナウイルス感染防止で実施出来なかった行事の復活に取り組む。

- ・自治会内に任意団体の組織化が出来ないか考えていきたい。(例として高齢者の方々の組織、ボランティア組織(草刈り作業等)によるお宮やお寺境内内地祭典の保存等)
- ・令和3年度までICTによる健康教室を実施していたが、昨年度は何も実施出来なかったので、今年度は健康教室等の実施を検討したい。
- ・コロナ禍で希薄化した地域コミュニティを取り戻すための事業を積極的に推進していきたい。
- ・地域の祭典や古典芸能の保存伝承について、少子高齢化に伴い人員の確保が難しくなっているので改革が必要となってきた。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

- ・鶴岡市住民自治組織総合交付金の増額により、安定的な自治会運営を望む。
- ・閉校小学校をそのまま放置せず、地域で活用できる施設にしていきたい。
- ・新型コロナウイルス感染防止で地域コミュニティの行事が出来なかった。令和5年度は以前の行事を復活するようにがんばっていきたい。

第2期計画における「目指す5年後の方向性」の実現に向け、鶴岡地域では6つの地域課題を設定し、取組例を示しています（計画P29～32等でご確認願います）。貴組織の取組状況等について、ご回答ください。

地域課題【鶴岡地域・単位】		取組状況		具体的取組とその効果など（取組んだ場合記入）				
① 将来を見据えた持続可能な組織づくり		<input type="checkbox"/> 取組んだ <input type="checkbox"/> 取組まなかった						
② 活動の担い手となる人材の確保と育成		<input type="checkbox"/> 取組んだ <input type="checkbox"/> 取組まなかった						
③ 情報発信と会員確保		<input type="checkbox"/> 取組んだ <input type="checkbox"/> 取組まなかった						
④ 地域課題の解決に向けた取組の実施		<input type="checkbox"/> 取組んだ <input type="checkbox"/> 取組まなかった						
⑤ 災害に備えたコミュニティづくり		<input type="checkbox"/> 取組んだ <input type="checkbox"/> 取組まなかった						
⑥ 「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり		<input type="checkbox"/> 取組んだ <input type="checkbox"/> 取組まなかった						
共通指標	住民同士の対話（話し合い）を積極的に行った	そう思う ←□5 □4 □3 □2 □1 →そう思わない					デジタル化の推進 <input type="checkbox"/> 電子メールの活用 <input type="checkbox"/> ホームページの活用 <input type="checkbox"/> 汎用的なアプリの活用（LINE・Facebook・Twitterなど） <input type="checkbox"/> 自治会向け専用アプリの活用 <input type="checkbox"/> ウェブ会議システムの活用 <input type="checkbox"/> その他 []	
	地域活動への参加者が前年よりも増えた	そう思う ←□5 □4 □3 □2 □1 →そう思わない						
	子どもが活躍できる環境づくりを促進した	そう思う ←□5 □4 □3 □2 □1 →そう思わない						
	組織間の連携や地域外交流を促進した	そう思う ←□5 □4 □3 □2 □1 →そう思わない						
	役員構成	20・30代	40・50代	60代	70代以上	計		備考：
男性								
女性								
計								
その他	地域で課題になっていることなどありましたら、ご記入ください。							
	具体的に考えている事業や取組んでみたい事業がありましたら、ご記入ください。							
	その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください。							

ご協力ありがとうございました。令和5年4月26日（水曜日）まで鶴岡市コミュニティ推進課へ提出ください。
 ※本シートは、提出前にコピーをとっていただき、計画の冊子と一緒に保管いただくなど、計画的な取組を推進くださるようお願いいたします。